



## 例　　言

1. 本書は、平成6年度県首農地保全整備事業元野地区に伴い田野町教育委員会が実施した『高野原遺跡』発掘調査結果のうち、主に縄文時代と古墳時代の出土資料について報告するものである。尚、本事業は宮崎県中部農林振興局からの委託と国庫補助事業を得て実施した。

2. 平成6年度の調査は次の体制で実施した。

調査主体	田野町教育委員会	教　育　長	鍋　倉　政　信
	同	社会教育課　課　長	前　田　久　育
調整担当	田野町教育委員会	同	補佐兼係長　長　友　啓　泰
庶務担当		同	主　查　長　友　カツ子
調査担当		同	主任主事　森　田　浩　史
		同	臨時調査員　白　岩　修
調査指導	宮崎県教育庁　文化課		

3. 平成15年度の室内調査及び資料整理作業は、次の体制で実施した。

調査主体	田野町教育委員会	教　育　長	西　田　英　介
	同	教育次長兼社会教育課長	新　坂　政　光
		社会教育課　係　長	後　藤　敏　典
調整担当	田野町教育委員会	社会教育課　主　查	森　田　浩　史
庶務担当		同　副　主　幹	藤　野　愛　子
調査担当		同　主　查	森　田　浩　史
		同　主　任	金　丸　武　司

4. 室内整理作業の実施にあたっては、整理作業員等の補助を得た。また遺物の一覧表作成及び図版の作成は、委託作業員である水島江里子を中心におこなった。

5. 本書の執筆及び編集は森田が担当した。また遺物の写真撮影は永島の補助を得て、森田が行った。

5. 本書で用いた方位は磁北、標高は海拔高である。

6. 本書に掲載した全ての資料は、田野町教育委員会文化財調査事務所が保管している。

## 本 文 目 次

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 遺跡の位置と歴史的環境緯	1
第3節 調査の概要緯	4
第4節 縄文時代の遺構と遺物緯	4
第5節 占墳時代の遺構と遺物	63
出土遺物(土器)観察表	48~59

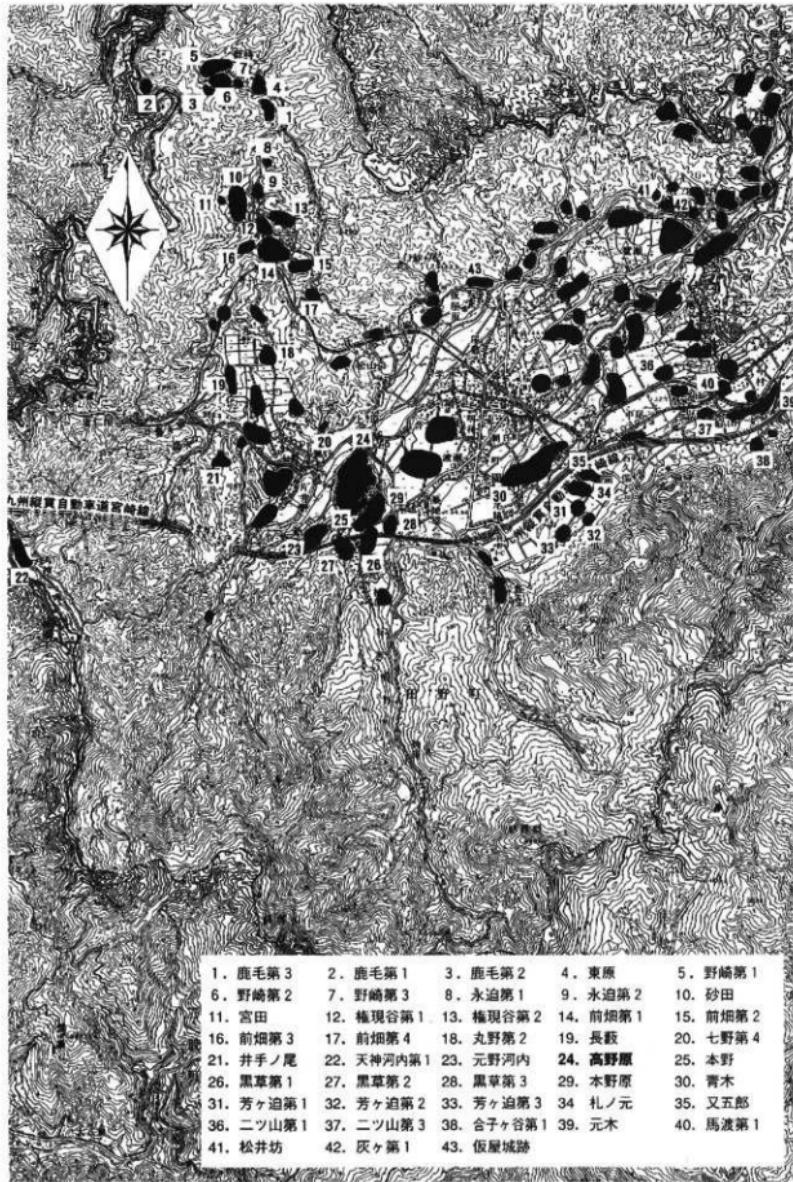
## 図面図版目次

第1図 町内主要遺跡分布図	
第2図 調査区周辺地形図	3
第3図 縄文時代早期出土遺物実測図	6
第4図 縄文時代前期出土遺物実測図	7
第5図 縄文時代前期末~中期初頭・後期出土遺物実測図	8
第6図 高野原遺跡B・C区遺構分布図	13
第7図 SA-02出土遺物地点図	15
第8図 SA-03・04出土遺物地点図	16
第9図 SA-07・09出土遺物地点図	17
第10図 SA-10出土遺物地点図	18
第11図 SA-05・06出土遺物地点図	19
第12図 SA-17・23出土遺物地点図	21
第13図 SA-21・22出土遺物地点図	22
第14図 SA-19出土遺物地点図	23
第15図 SA-20出土遺物地点図	25
第16図 SA-02・03出土遺物実測図	26
第17図 SA-03・04出土遺物実測図	27
第18図 SA-05・06出土遺物実測図	28
第19図 SA-06・07出土遺物実測図	29
第20図 SA-07・08出土遺物実測図	30
第21図 SA-08出土遺物実測図	31

第22図	SA-09・10出土遺物実測図	32
第23図	SA-10出土遺物実測図	33
第24図	SA-10~12出土遺物実測図	34
第25図	SA-14・15・17・19出土遺物実測図	35
第26~29図	SA-19出土遺物実測図	36~39
第30図	SA-20出土遺物実測図	40
第31図	SA-20~22出土遺物実測図	41
第32図	SA-23・SC-01出土遺物実測図	42
第33~37図	その他縄文時代後晩期の出土遺物実測図	43~47
第38~40図	縄文時代出土遺物実測図(石器)	60~62
第41図	ST-03出土遺物実測図	65

## 写真図版目次

図版 1・2	縄文時代早期の土器	67・68
図版 3・4	縄文時代前期の土器	69・70
図版 5	縄文時代前期末~中期初頭・後期の土器	71
図版 6~39	縄文時代後晩期の上器	72~105
図版 40・41	縄文時代の石器	106・107
図版42~44	地下式横穴墓ST-03の出土遺物	108~110



第1図 町内主要遺跡分布図

## 高野原遺跡B・C区の調査

### 第1節 調査に至る経緯

田野町元野地区を中心に、平成4年度から県営農地保全整備事業元野地区に伴う各種工事が計画・実施されている。

平成6年度も同高野原工区で整備事業が計画されたため、工区内の文化財の所在及び範囲を明らかにするための試掘調査が宮崎県文化課により実施された。その結果、かなり高密度の遺跡の所在が確認されたため、県中部農林振興局、県文化課、町農業整備課、町教育委員会、町土地改良区の間で、遺跡の保護と工事設計の見直し等について再三にわたる協議を行ったが、設計施工上どうしても文化財の消滅を免れない部分があり、やむをえず発掘調査による記録保存の措置を執ることになった。県中部農林振興局と発掘調査の委託契約を締結し、同年9月8日から調査に着手した。

### 第2節 遺跡の位置と歴史的環境

田野町内には以前から多くの遺跡の所在が知られていた。また、近年の発掘調査や分布調査などにより各時代の生活の痕跡が徐々にではあるが明らかにされつつある。まずは町内に所在する各時代の遺跡について概略を紹介しておきたい。

旧石器時代はナイフ型石器が表採された三角寺地区の萩ヶ瀬第2遺跡、前平地区的芳ヶ迫第1・第3・札ノ元遺跡、七野地区の長戸遺跡、元野地区的元野河内遺跡、鹿村野地区的ズクノ山第2遺跡などがある。芳ヶ迫第1遺跡では集石遺構が検出され、その周囲からナイフ形石器・剥片尖頭器・三稜尖頭器・彫器・搔器などが出土。また岡第3遺跡でも集石遺構に伴った石核・剥片の他、剥片尖頭器が出土。長戸遺跡ではA T上に堆積した褐色ローム層から石核・剥片などが出土。ズクノ山第2遺跡では、F地区で小林降下軽石層からさらに下位の褐色ローム層にかけて剥片などが出土している。この他、最近では平成13年度に調査した元野地区的本野原遺跡からも少量ながら採集された。

縄文時代は草創期から晩期にかけての遺跡が、それぞれ濃淡はあるものの町内各地に点在する。草創期は札ノ元遺跡、芳ヶ迫第3遺跡、塩水地区の井手ノ尾遺跡、八重地区的砂田遺跡、七野地区の七野第4遺跡などで発掘調査に伴い土器片などが出土。これらは、いずれも縄文時代早期の包含層から出土したものである。また、同時期の遺構は現在のところ確認されていない。早期は町内各地の台地や丘陵上にはほぼ全域にわたって遺跡が所在するといつても過言ではない。しかし、各遺跡の遺構分布密度や遺物出土量には濃淡がある。主なところとしては、前山の芳ヶ迫第1・第3遺跡、札ノ元遺跡、井手ノ尾遺跡、砂田遺跡、ズクノ山第2遺跡をはじめとして、前平地区的又五郎遺跡、天神地区的大神河内第1遺跡、二ツ山地区的二ツ山第1遺跡、八重地区的前畑第1遺跡、鹿村野地区的前野原第2遺跡、ズクノ山第1遺跡などがある。これらは、いずれも集石

遺構を伴うが竪穴住居跡が検出されたのは又五郎遺跡のみである。芳ヶ迫第1・第3遺跡、札ノ元遺跡、二ツ山第1遺跡では集石遺構が高密度で検出されている。ズクノ山第2遺跡E地区では上坑と長円形の配石遺構が検出されており、中でも調査区の西端において検出された6基の土坑は比較的整然と配置されていることから、墓としての機能も考えられる。前期に入るとこれらの様相が一変し、遺跡数及び遺物出土量の極端な減少傾向がみられ、調査によって確認されたのは長蔵遺跡、天神河内第1遺跡、本野原遺跡、船ヶ山地区の元木遺跡、元野地区の本野遺跡、七野地区の丸野第2遺跡などにとどまる。本野原遺跡では竪穴住居跡が1軒のみ検出されている。中期もこれと同様の傾向がみられ、丸野第1遺跡、二ツ山第3遺跡、本野遺跡、本野原遺跡などにとどまる。二ツ山第3遺跡では円形の竪穴住居跡が、本野原遺跡では方形の竪穴住居跡が検出されている。後期になると、遺跡数は少ないながらも大規模な集落の造営が確認されはじめ、晚期に至ってから徐々に終息していく傾向がみられる。主なところとして丸野第2遺跡、砂田遺跡、本野遺跡、本野原遺跡、青木遺跡などがある。青木遺跡では配石遺構や貯蔵土坑が検出されたといわれる。丸野第2遺跡では円形の竪穴住居跡群と集石遺構が検出されている。また、本野原遺跡では多数の竪穴住居跡や環状に配置される土坑、道路状遺構、大型建造物の可能性がある土坑の並び、整地の痕跡などが検出され、全国的にも注目を集めている。この調査区より少し離れて西側へは後期末から晩期の遺構群も所在することが確認調査により明らかになっている。その他、本野遺跡で後期末もしくは晩期初頭の土器を伴う竪穴住居跡群が、松山地区的吹田遺跡では分布調査時に確認された円形のソイルマークエリア内から粗製の黒色磨研土器が採集されている。

弥生時代になると、前期に限ってはその痕跡すらみられなくなるが、中期の後葉から後期にかけての集落が突如として展開される。高野原遺跡、本野遺跡、権現谷第1遺跡、元木遺跡、ズクノ山第1遺跡などである。このうち本野遺跡、権現谷第1遺跡は方形の竪穴住居跡のみで、他は日向型間仕切り住居が含まれる遺跡である。

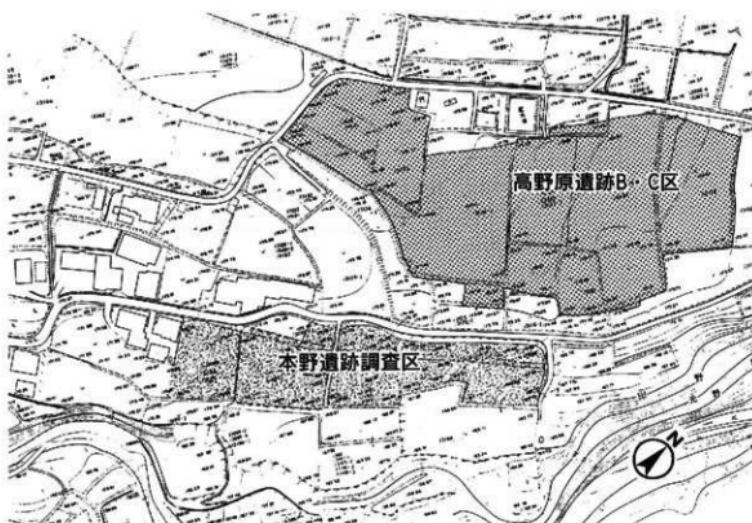
古墳時代の集落跡は現在のところないが、地下式横穴墓のみ高野原遺跡と灰ヶ野第1遺跡で発見されている。灰ヶ野1号地下式横穴墓では蛇行剣が、高野原1号地下式横穴墓では鹿角製刀装具付き剣が出土している。いずれにせよこの時代に至って、再度遺跡数が激減する傾向は否めない。

古代以降は本野原遺跡、船ヶ山地区的合子ヶ谷第1遺跡や本野原遺跡などで調査例があるほか、各地で同時代の遺物が採集されている。その分布は特に河岸段丘上に多く見られ、官道を含めた道の所在と集落のあり方の一端を垣間見ることが出来る。本野原遺跡では、綠釉陶器片が出土した。また、日向16駅のひとつである牧戸駅の所在地を田野町内七野地区あたりとする説もあるが、現在のところ明確にはされていない。

中世になると、おそらく現在の集落域と重なって遺跡が所在するものと考えられる。発掘調査において確認されているのは、元木遺跡や天神河内第2遺跡のほか、元野地区周辺の畠田遺跡と本野原遺跡のみである。中世の山城については、既に消滅した梅谷城のほかヒダカン城、上ノ

原城、仮屋原城などがある。その造営には伊東と島津の戦いが背景にあったことは言うまでもない。仮屋原城は開墾や開発等の影響を受けることなく、ほぼ当時の地形を保っている。このほか、八重地区の前畠第1遺跡では研掘りの溝も検出されている。

高野原遺跡が所在する元野地区周辺は、鰐塚山系からの豊富な水源の恩恵を受け、各時代の遺跡が点在する。中でも高野原遺跡と本野遺跡のある広大な台地上には縄文時代中期から後・晚期と弥生時代の集落跡、古墳時代の地下式横穴墓の分布がみられ、元野川を挟んだ対岸の本野原遺跡とならび、縄文時代早期を主体とする町内の他の遺跡分布エリアと比較して、卓越した内容である。当時の田野盆地内における中心的な位置を占めるエリアであったとも想定されよう。今回報告する高野原遺跡B・C区は台地南東部の標高約173m～179mの地点にあり、町道を挟んだ南側の標高約168m～172mの地点にある本野遺跡に隣接した位置にある。



第2図 調査区周辺地形図

### 第3節 調査の概要

高野原遺跡の南東部に位置するB・C区では、東側において堆積の残存状態が良く、西側及び中央部から北側にかけて耕作による削平が顕著に見られる。調査は主にアカホヤ火山灰堆積層（以下、アカホヤ層という）上面における遺構検出を目的として行った。東側ではアカホヤ層と耕作上層の間に黒色土層が堆積しており、縄文時代晚期初頭の土器が多量に出土した。しかし、遺構は掘立柱建物とピット群を検出したのみで、堅穴住居は見られなかった。尚、ピット群の中には柵列状に並ぶものもある。ピット群の大半は、埋土が他の遺構に比べて明るい暗褐色を呈し耕作土に近似していることなどから、古くても弥生時代以降のものであろう。中央部においては縄文時代の堅穴住居跡が23軒と弥生時代の堅穴住居跡が14軒に加え、約50軒の掘立柱建物を含むピット群が検出された。時期についてはやはり特定できなかったが、埋土にそれほど新しい要素が見られないことや東側の遺物出土状況などから、縄文時代のものとした。西側についてはピット群が検出されたほか、地下式横穴墓が3基検出された。いずれも平入りタイプのもので、ST-03以外は既に崩落または破壊されている。ST-02は農地の深耕中発見された際に宮崎県が調査したものとみられる。同時期の遺物は耕作土中においても皆無であり、他の掘立柱建物やピット群はこれらに伴うものではないと判断される。

### 第4節 縄文時代の遺構と遺物

高野原遺跡においては、旧石器時代所在の可能性を残しながらも、早期から生活の場が展開される。各調査区において集石遺構等が散見されるが、これより南南西に位置する元野河内遺跡での早期遺構・遺物の出土量は、高野原を完全に凌駕している。これが前期・中期になると、やはり各遺跡で散見されるものの、遺物量に関していえば南側の本野原遺跡が圧倒している。後期になると丸野遺跡の集落跡なども出現するが、規模において本野原遺跡が卓越し、その傾向は晩期まで継続する。このような状況下で、高野原遺跡では後期末～晩期初頭という、ごく限られた時期に集落が営まれていたことがわかった。近年は本野原遺跡で環状の構造を意識した集落跡が発見され、南九州における縄文集落の認識転換を迫られる結果となった。この環状という認識で高野原の遺構群を見ると、堅穴住居を主とする中心部と、それを取り囲むかのように環状あるいは螺旋状に分布する掘立柱建物群がイメージされる。さらに祭祀遺物的な性格が強い台付皿の出土も本野原遺跡との共通点として挙げられよう。いっぽう本野原遺跡と大きく異なる点は、掘立柱建物の外周に堅穴住居が分布しないこと、環状に巡る土坑群が存在しないことなどである。いずれも西日本では未だ類例が無いため、東日本の遺跡との比較検討をすべきであるが、両者の相違点は集落の持つ性格もしくは時間的な変遷を表しているものであろう。

以下、各時期の出土遺物と各遺構の概略について記述しておくが、出土遺物の詳細は一覧表にまとめた。また遺構実測図については、一部遺物の出土状況として掲載したものを除き、田野町文化財調査報告書第45集「高野原遺跡B・C区（2）」に掲載している。

### ① 縄文時代早期の遺物

調査区北側において行った確認調査で出土したものである。いずれも黒褐色硬質土層下の褐色土層内からの出土で、集石遺構も1基検出された。検出状況から、これらは同一時期のものと判断できる。

(1~20) はすべて貝殻条痕文を施すもので、口縁部には貝殻刺突文を施すもの(1・7・9・10)と貝殻押引文を施すもの(2~6・8・10)、地文のみのもの(11~13)とがある。

町内では鹿村野地区のズクノ山第2遺跡E区などで、県内では宮崎市の椎屋形第2遺跡や西都市の別府原遺跡などで類例が出土している。従来は前平式系土器として報告されていたものであるが、近年は独立した型式とする動きもある。ズクノ山第2遺跡E区では「別府原タイプ」として報告されている。本遺跡では確認調査のみではあるものの、このタイプが単独で出土したことは興味深い。その他、石鏃(263・266・270)と磨石(289・291)と角鏃(290)のほか、全体の約7割以上に敲打痕が見られる用途不明石器(287)も出土した。(287)は受熱により赤変している。早期の遺物包含層はさらに東西南北への拡がりをみせたと思われるが、集石遺構や比較的疎らな砾の出土状況から、それほどの遺構の集中は無かったものと想定される。

### ② 縄文時代前期の遺物

曾畠式土器(21~40)と尾田式土器(41~44)に大別される。いずれも耕作土内もしくは堅穴住居内覆土に混入して出土したものである。

曾畠式土器(26~28・30・40)は縦横に施す沈線の組み合わせにより文様帯の区画を形成するものと見られる。(21・22・33~38)は縦位の沈線文を密に施したち横位または不定方向の沈線を施している。口縁部(21~24・32~34)はその内面に横位の沈線文、端部に刻み目を施す。いずれも同型式の中で新しい段階に属するものである。

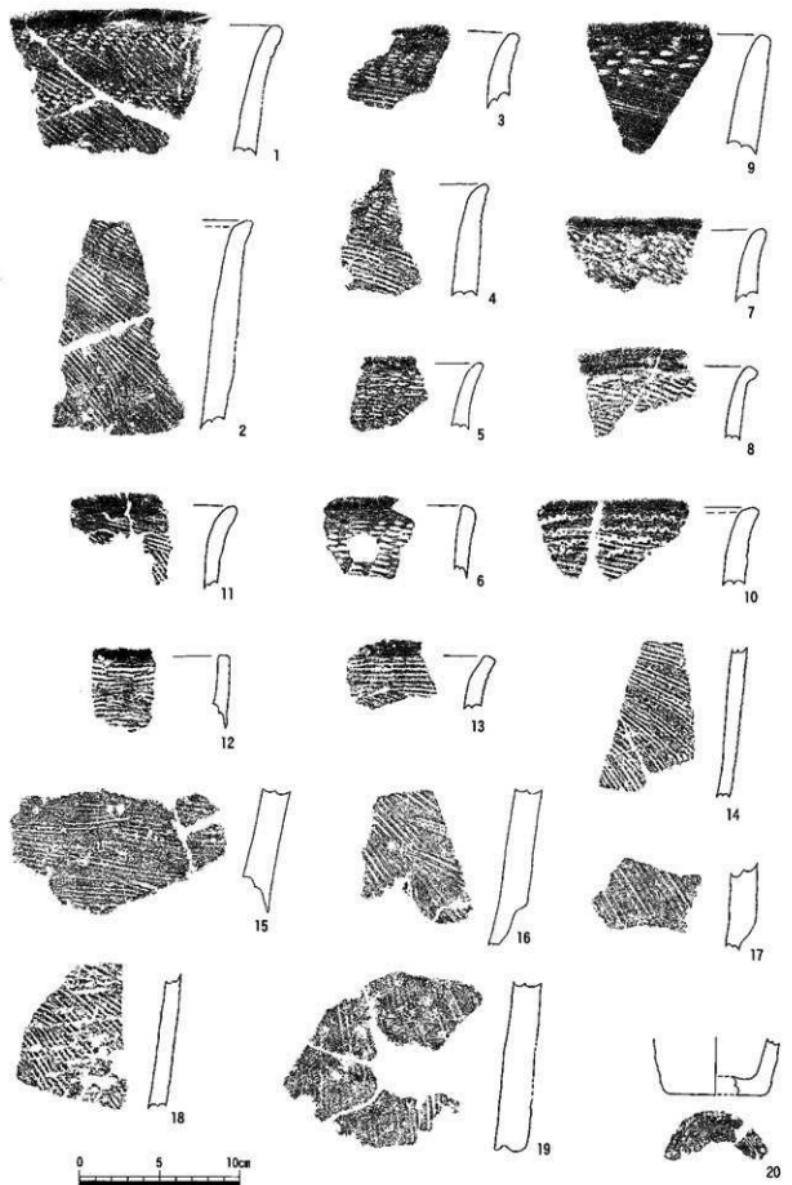
尾田式土器(41)は粗大な帶状押引文を縦位に施すものである。また上部には横位の刻目突帯文が2条まで確認できる。上部で緩やかにくびれて外反する形状が想定され、星塚遺跡出土の星塚式土器I類とされるものに似た様相を呈する。(42~44)は二枚貝による横位の施文と同じく粗雑な押引文を組み合わせるものである。

### ③ 縄文時代後期の遺物

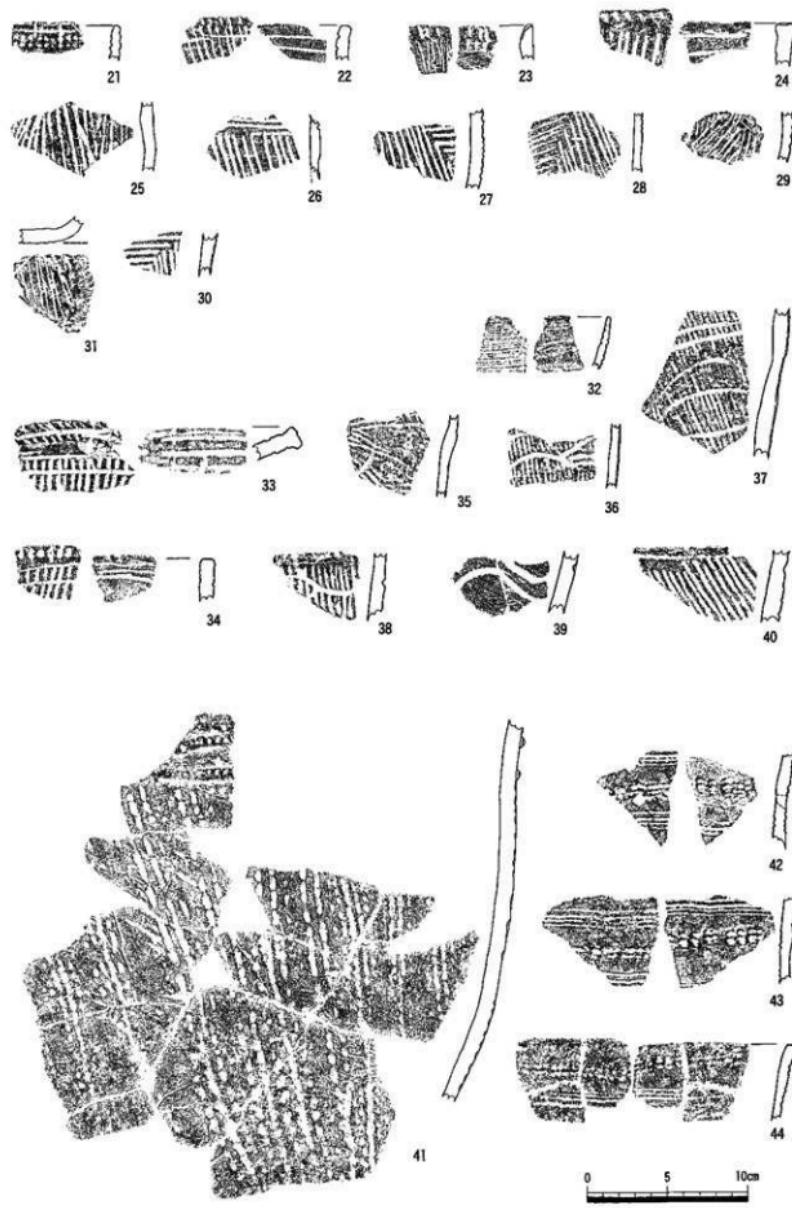
後期の丸尾式とされるもの(60~68)がある。丸尾式については、近隣の本野原遺跡や丸野第2遺跡でも出土しているが、本遺跡においては調査区北側と道路を挟んださらに北側の畠の耕作土内に限られており、客上によって持ち込まれたものである可能性も否定できない。口縁部が逆くの字になるタイプ(60~63)とくの字になるタイプ(65・66)がある。いずれも斜方向の条痕文を地文とし、貝殻腹縫による連続刺突文を施す。(60・61)はこれと凹線文を組み合わせたものである。

### ④ 縄文時代前中期～中期初頭の遺物

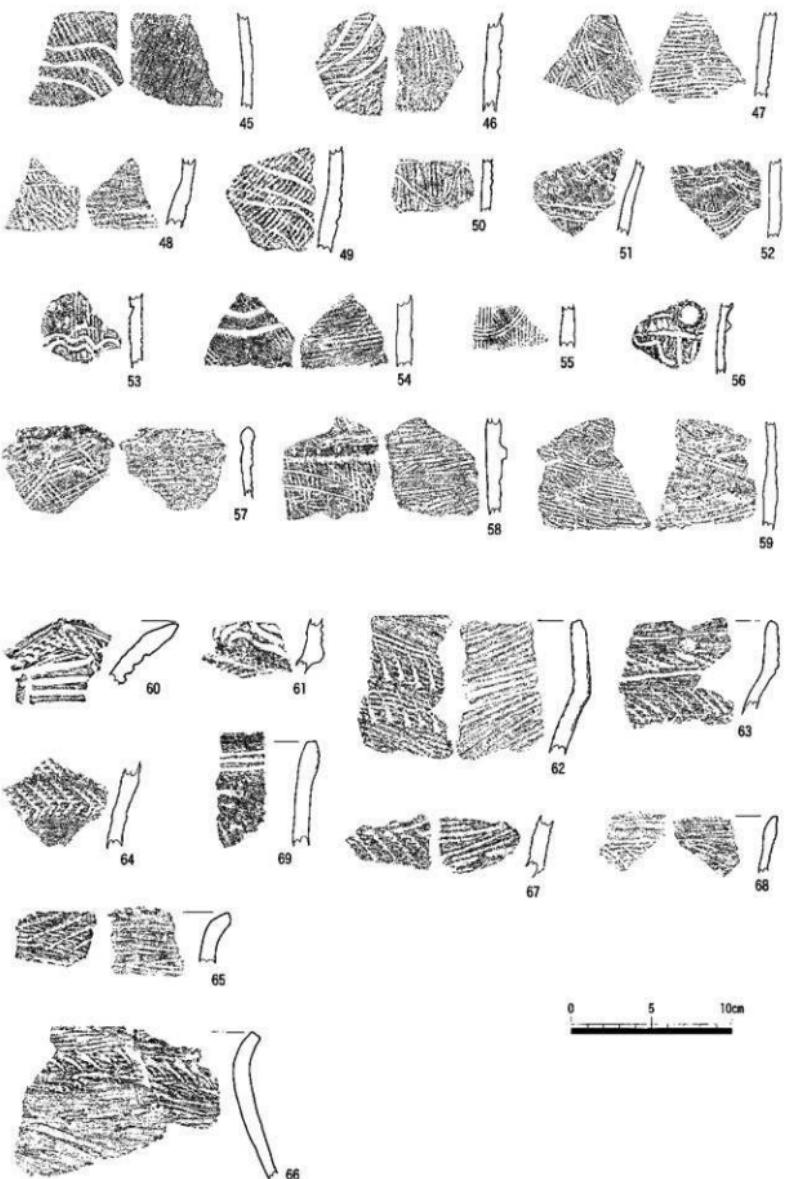
調査区内から、深浦式土器に相当すると見られる土器(45~69)も少量ながら出土した。斜位の条痕文と沈線文を組み合わせるもので、(56)は円形貼付文が施される。



第3図 繩文時代早期出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



第4図 縄文時代前期出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



第5図 繩文時代前期末～中期初頭・後期出土遺物実測図 (S = 1/3)

## ⑤ 縄文時代後期末～晩期前葉の遺構と遺物

本遺跡においては、弥生時代に次いでメインとなる時期である。竪穴住居跡（SA-01～23）やこれに伴う土器、詳細な時期判別は困難であるが掘立柱建物群などが検出された。竪穴住居跡は調査区の中央からやや北寄りを中心として23軒を検出、いずれも円形プランを呈するものが多いが、不整形な傾向がみられる。各遺構から出土した土器は、宮崎市平畠遺跡出土の一群と酷似している。掘立柱建物はこの中心をやや外れたエリアとその外周において、恰も環状を呈するかのように分布する。また、本野原遺跡で見られたような袋状土坑や配石土坑、配石遺構等は皆無であった。

(SA-01)

調査区のほぼ中心部に位置する標高176.4mの地点で検出した。検出面から床面最深部までは約6cm、外周は最長部で258cmを測る。やや歪な円形プランを呈する。床面に3箇所のピットを検出したが、住居に伴うものであるかは疑わしい。遺物は二次加工剥片（281）が出土したのみである。

(SA-02)

SA-01から南西へ最短約3.6m、標高約176.3mの地点で検出した。検出面から床面最深部までは約20cm、外周は最長部で451cmを測る。やや歪な円形プランを呈し、中央部に3箇所の柱穴も検出された。遺物は深鉢（70～72・74～76）のほか台付皿（73）と二次加工剥片（279）などが出土した。

(SA-03・04)

SA-02から北西へ最短約2.0m、標高約176.4mの地点で検出した。検出面から床面最深部までは約35cm。いずれもやや歪な円形プランを呈するが、SA-04については全体的な形状から見て、2軒の住居が重複しているものと考えられる。SA-03からは深鉢（77～82）や石匙（284）二次加工剥片（274）、04からは鉢形土器（83～85）と台付皿の脚部（86）などが出土した。（77）は膨らみを持つ胴部から緩やかに外反し、波状口縁となるタイプ。（80）は胴部と頸部の境をやや明瞭につくり、口縁部が外反するタイプ。（81）は口縁部内面に沈線文を施すタイプである。

(SA-05)

SA-06に切り込まれる状態で標高約176.4mの地点で検出した。やや歪な方形プランを呈する。検出面から床面最深部までは約19cm、外周は最長部で470cmを測る。中心部に一箇所の柱穴を有する。遺物は深鉢（87～89）が出土した。（87）は口縁部が直立するタイプとみられる。

(SA-06)

SA-03の北に隣接した地点で検出した。歪な円形プランを呈する。検出面から床面最深部までは約28cm、外周は最長部で592cmを測る。中心部と南北にそれぞれ1箇所の計3箇所に柱穴を有する。遺物は深鉢（91～93・95～97）と浅鉢（94）二次加工剥片（277）が出土した。

(SA-07)

SA-05から北西へ最短約16.0m、標高約176.7mの地点で検出した。歪なプランを呈する。検出面から床面最深部までは約30cm、外周は最長部で460cmを測る。中心部とその南西側にそれぞれ1箇所の柱穴を有する。遺物は深鉢（98～104・107）浅鉢（106）と台付皿（105）のほか、台石状の礫が1点出土した。

(SA-08)

SA-06から西へ最短約8.6m、標高約176.3mの地点で検出した。削平のために大半を消失しており正確なプランは定かではない。検出面から床面最深部までは約10cm、外周は最長部で450cmを測る。遺物は深鉢（108～115）が出土した。（108～112）は頸部内面に稜を持つ。（108）は他と比べてやや精製である。（111）には補修孔が見られる。

(SA-09)

SA-05から北西へ最短約0.3m、標高約176.6mの地点で検出した。円形のプランを呈する。検出面から床面最深部までは約26cm、外周は最長部で437cmを測る。中心部と北東側に各1箇所の柱穴を有する。遺物は深鉢（117～120）が出土した

(SA-10)

SA-08から北西へ最短約7.2m、標高約176.7mの地点で検出した。歪な円形プランを呈する。検出面から床面最深部までは約28cm、外周は最長部で578cmを測る。中心部からやや外れた1箇所と北東側に1箇所の柱穴を有する。遺物は深鉢（121～132）のほか石匙（283）石鑓（272）などが出土した。（127・128）は頸部内面に稜を持つもので、（127）はやや直立気味の口縁部、（128）は口縁部が外傾し波状を呈するタイプである。

(SA-11・12・13)

SA-03から南西へ最短約7.3m、標高約176.7mの地点で検出した。それぞれが切り合った状態での検出で、北東側の約半分を畦反の切込みにより消失している。円プランを呈し、検出面から床面最深部までは約20cm。遺物は深鉢（133～141）が出土した。頸部内面に稜を持つタイプが大半である。

(SA-14)

SA-02から南西へ最短約1.8m、標高約176.3mの地点で弥生時代のSA-28に切り込まれる状態で検出した。プランは不明で柱穴も検出できなかった。検出面から床面最深部までは約7cm。遺物は深鉢（142～145）が出土した。

(SA-15)

SA-02から南東へ最短約5.3m、標高約176.3mの地点で検出した。やや歪な円形プランを呈する。検出面から床面最深部までは約7cm、外周は最長部で320cmを測る。中心部に3箇所の柱穴を有する。遺物は深鉢（146～152）が出土した。

(SA-16)

SA-01から南東へ最短約12.0m、標高約175.6mの地点で検出した。削平による影響が著しく、プランは不明である。検出面から床面最深部までは約7cm。遺物は出土していない。

(SA-17)

SA-16から南東へ最短約3.2m、標高約176.0mの地点で検出した。380cm×350cmの隅丸の方形プランを呈する。検出面から床面最深部までは約23cm。中央部と南側に柱穴を有する。遺物は深鉢（153～160）が出土した。

(SA-18)

SA-08から南西へ最短約20.6m、標高約177.2mの地点で検出した。265cm×193cmの歪な隅丸長方形プランを呈し、検出面から床面最深部までは約13cm。南西側に4箇所の柱穴を有する。遺物は出土していない。

(SA-19)

SA-18の南東に隣接した標高約177.1mの地点で検出した。歪な円形プランを呈するが、本来は拡張を行った結果か2軒の竪穴住居であった可能性がある。検出面から床面最深部までは約17cm、外周は最長部で575cmを測る。遺物は深鉢（161～176）と台付皿の脚部とみられる（177）のほか、石皿状の円盤が出土した。深鉢は大半が頸部内面に稜を持つもので、（168・169）は肩部が強く張るタイプである。

(SA-20)

SA-18から北東へ最短約8.0m、標高約177.0mの地点で検出した。380cm×370cmのやや歪な隅丸方形プランを呈し、検出面から床面最深部までは約20cmを測る。中心部に1箇所の柱穴を有する。遺物は深鉢（184～187）が出土した。いずれも頸部内面に稜を持つタイプである。

(SA-21)

SA-20から南へ最短約2.7m、標高約177.0mの地点で検出した。削平の影響から、原形を留めていない。遺物は深鉢（189）が1点のみ出土した。

(SA-22)

SA-21から南東へ最短約1.8m、標高約177.0mの地点で弥生時代のSA-31に切り込まれる状態で検出した。削平の影響から、原形を留めていない。遺物は深鉢（190～192）が出土した。（191）は内面に稜を持つが、ほぼ直立する口縁部をつくる。

(SA-23)

SA-22の南東に隣接した標高約177.0mの地点で検出した。歪な円形プランを呈し、検出面から床面最深部までは約18cm、外周は最長部で934cmを測る。遺物は深鉢（193～197）が出土した。

(SC-01)

SA-01から北東へ最短約19.6m、標高約176.1mの地点で検出した。72cm×71cmのほぼ円形プランを呈し、検出面から最深部までは約36cmを測る。他に類する遺構が見られないことから、本来は竪穴住居内の施設であった可能性がある。遺物は深鉢（198・199）が出土した。

#### (掘立柱建物群)

前述したように時期決定の根拠に欠けるが、分布状況や埋土等からこの時期に設定した。但し、以前の報告図面では時期不明のものとして扱う予定であったため、縄文時代の遺構としての認識が反映されおらず、再整理段階で追加や抹消及び変更したものもある。さらに庇付の構造や縦柱構造及び規模など、多くの再検討すべき事項を露呈する結果となった。これらについては、建替えや拡張、重複が想定される。また、個々の柱穴が小ぶりであるなど本野原遺跡で検出された縄文時代後期の例と異なる点もある。本遺跡を含めた縄文時代集落の検討を行いうえで、再検証する作業は不可欠であると考えるが、まずは今後の課題とさせていただきたい。

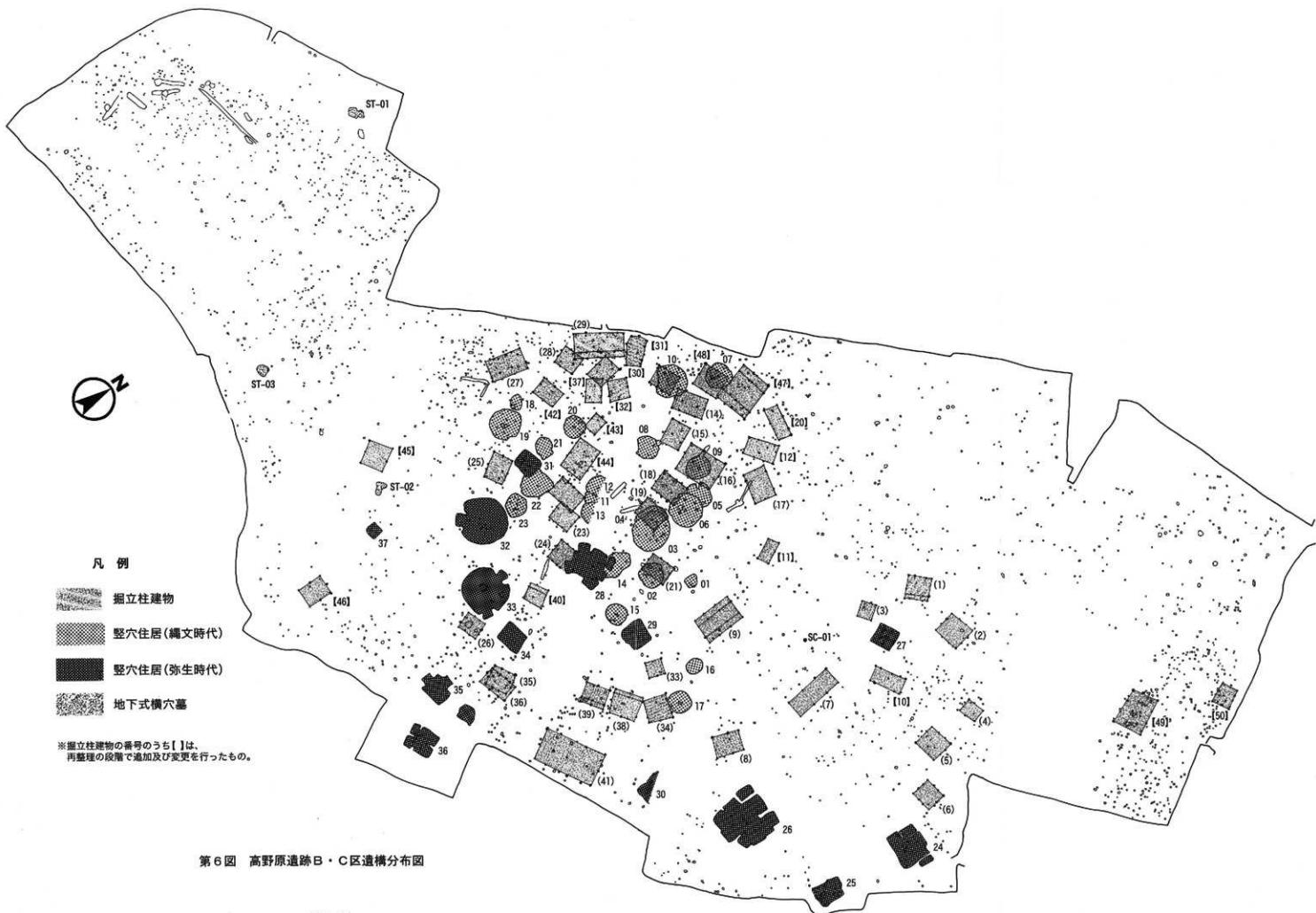
#### (その他の遺物)

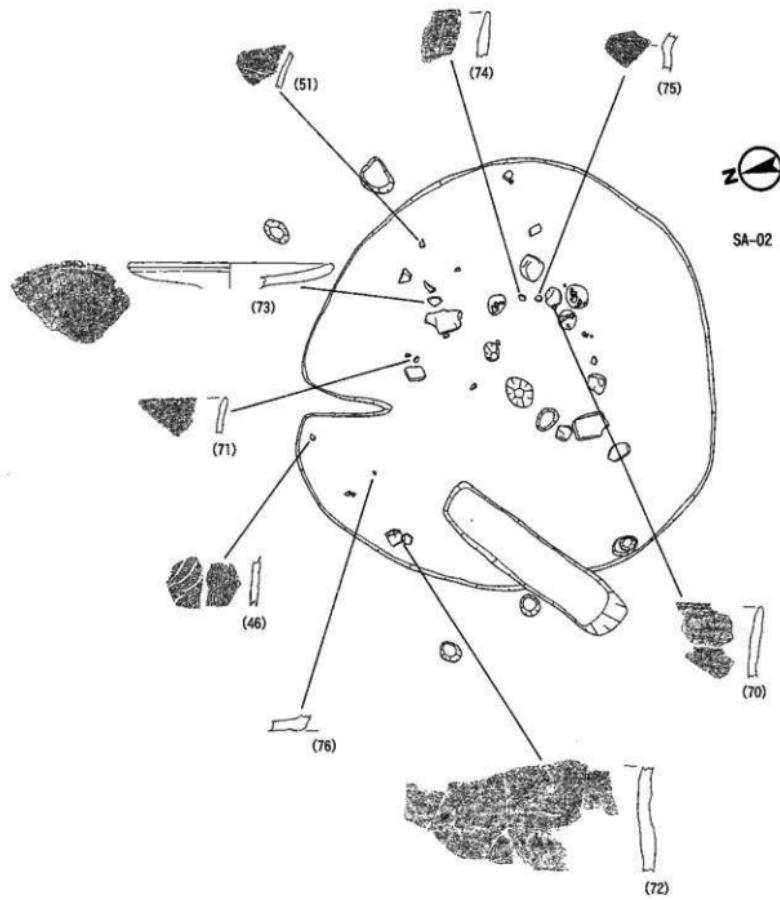
耕作上除去や包含層掘り下げの段階で出土したもの、地点不明のもの、調査区内で表採されたものをここに含めた。(200)は台付皿で(220)は浅鉢、(201~219・221~257)はいずれも深鉢である。深鉢は(252~257)の一一群を除いて、ほぼ大差は無いと思われる。これらの中で特徴的なものとしては、他よりも口縁部を短くつくる(201・226・227・229・230・251)が挙げられよう。

(258~262・264・265・267~269・271)は石鏸で、粗製の小ぶりなものが多い。(282)は石匙、(278)は一次加工剥片、(285)は切口石錐である。(275)は打製石斧で刃部を欠損している。

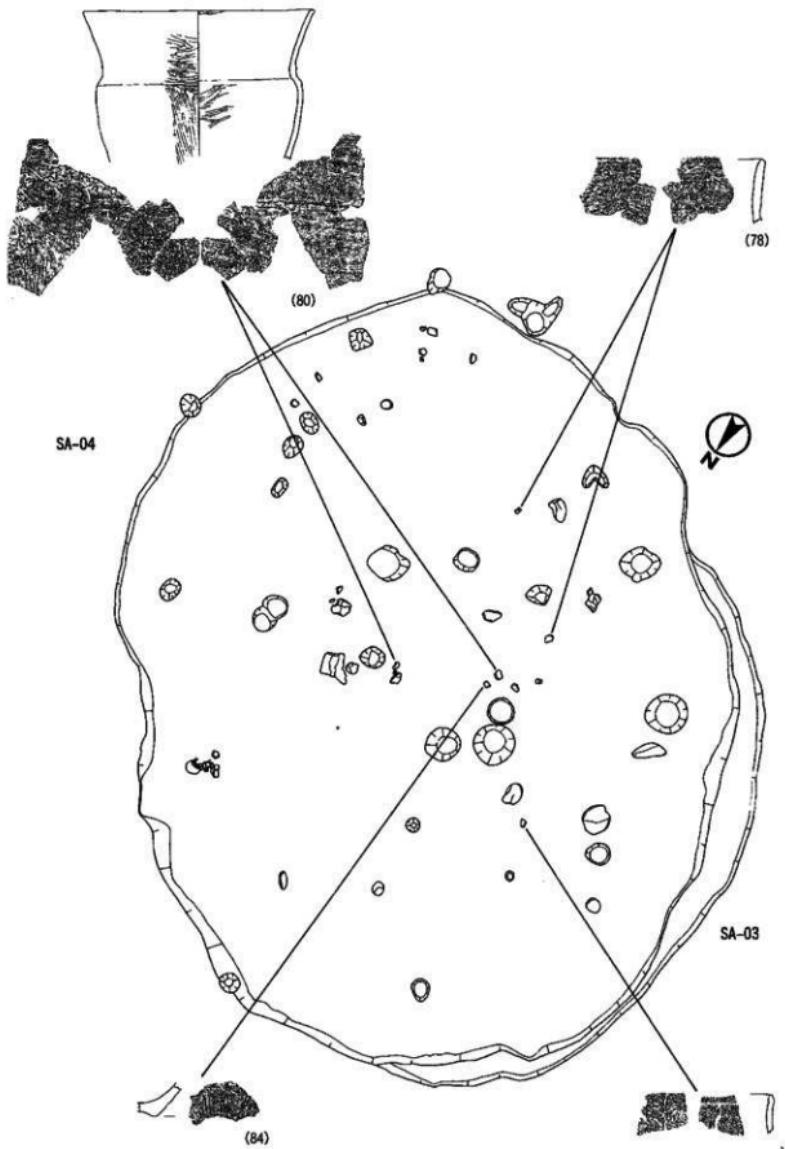
以上の後期末～晚期前葉の資料に関して、若干の補足を行っておきたい。(252~257)は三万田式～鳥井原式並行期に収まるものである。堅穴住居内からは出土していない。SA-03出土の(77)とSA-10出土の(128)は三万田式期に並行するもの、SA-03出土の(80)とSA-06出土の(94)は御領式期に並行するものである。遺構内出土遺物と他を含めてこの三万田式並行期～御領式並行期を外れる、まとまった資料が見られないことから、高野原遺跡の縄文時代住居群は、同期内において營まれたものと考えたい。これら遺物に関する所見は、宮崎県埋蔵文化財センター調査員の重留氏からご教示いただいた。

現在は木野原遺跡の国指定に向けた作業と並行して、同遺跡の調査報告書刊行作業を進めている。この、木野原遺跡と高野原遺跡の縄文集落は、河川を隔てた近隣に所在することから、両遺跡の時間的な流れを含めた位置付けを検証することは不可欠な作業である。本書で不十分であつた多くの部分については、他の場を借りて補っていきたい。

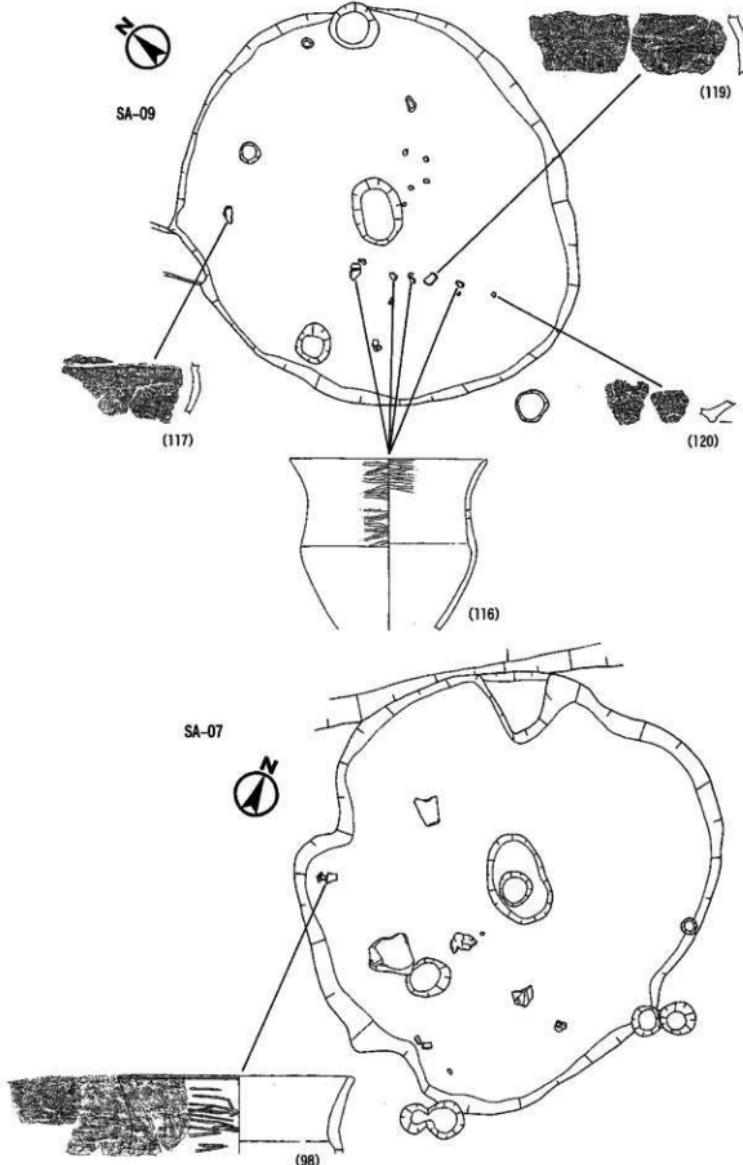




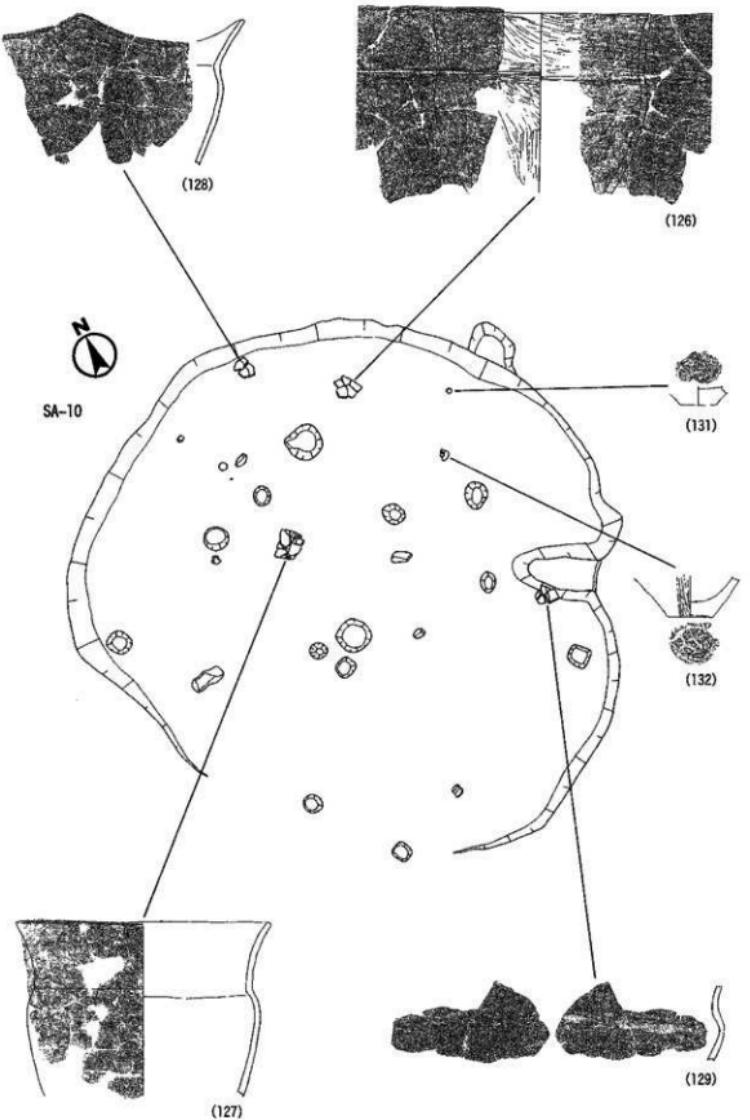
第7図 SA-02出土遺物地点図



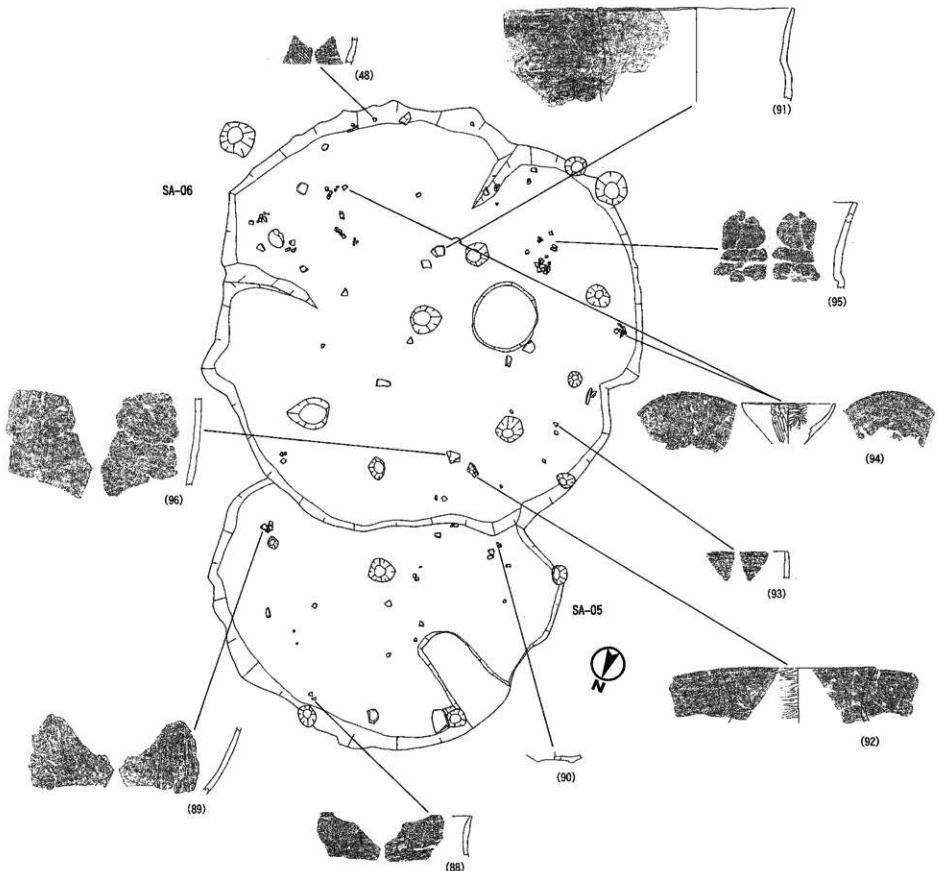
第8図 SA-03・04出土遺物地点図



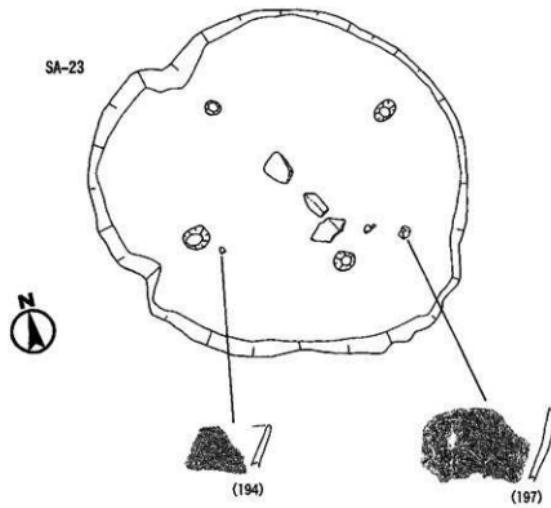
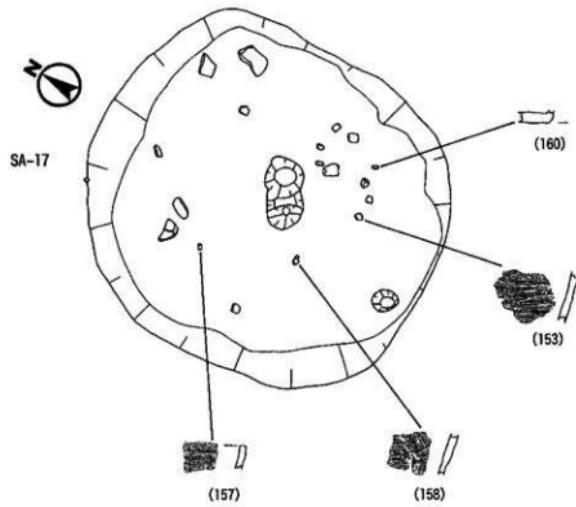
第9図 SA-07・09出土遺物地点図



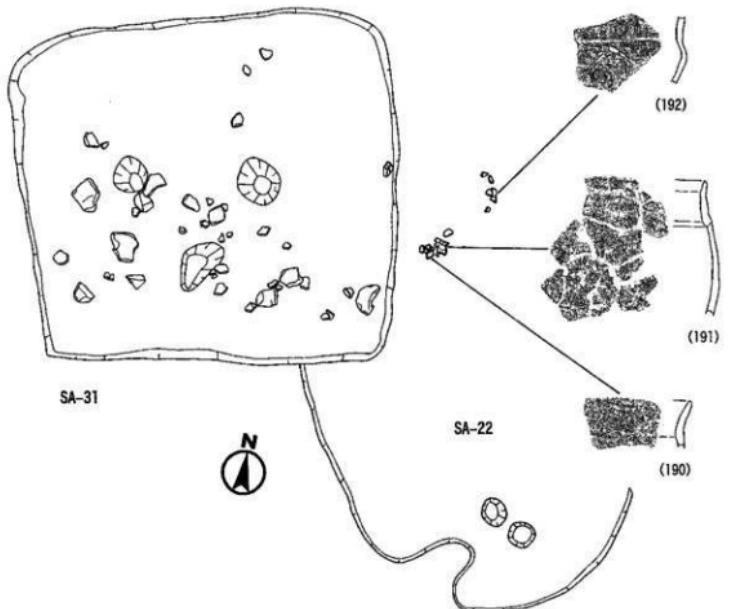
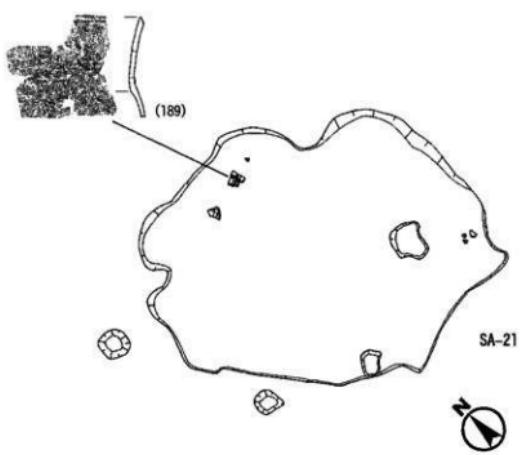
第10図 SA-10出土遺物地点図



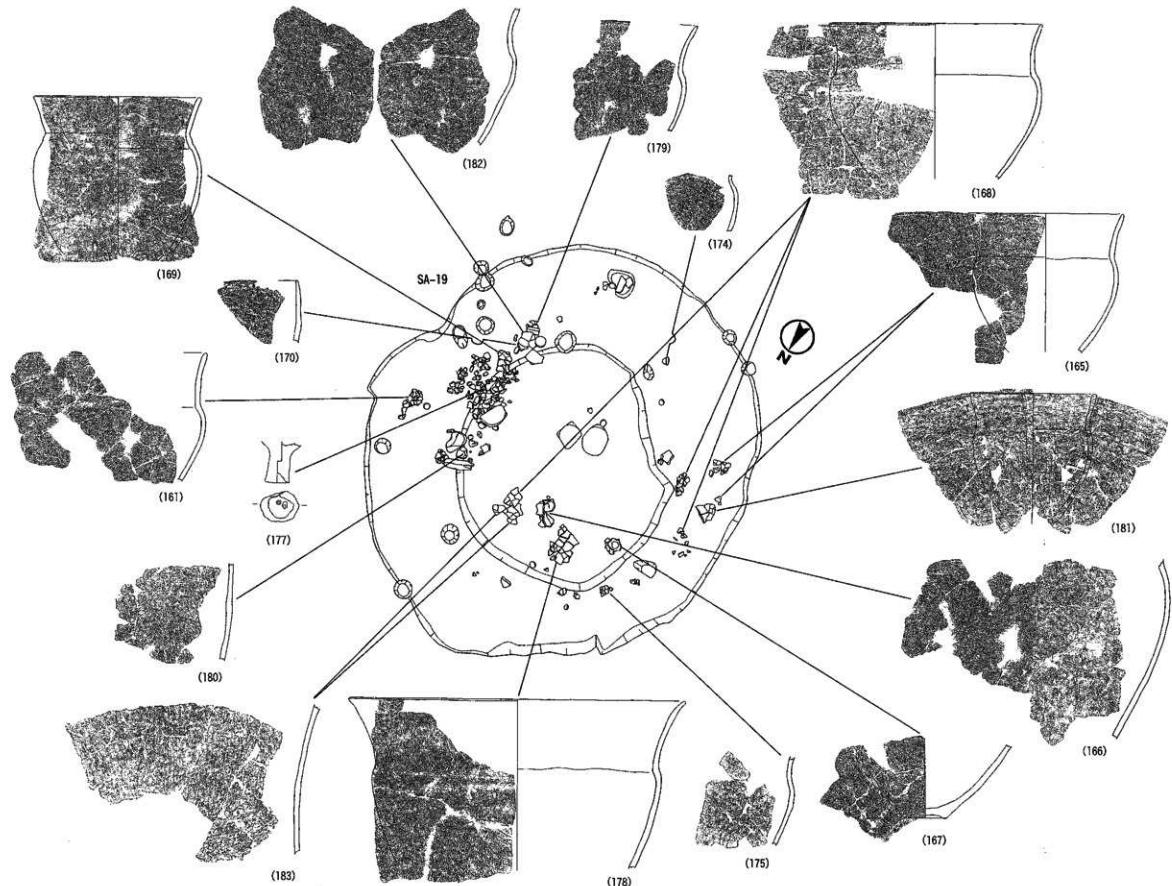
第11図 SA-05・06出土遺物地点図



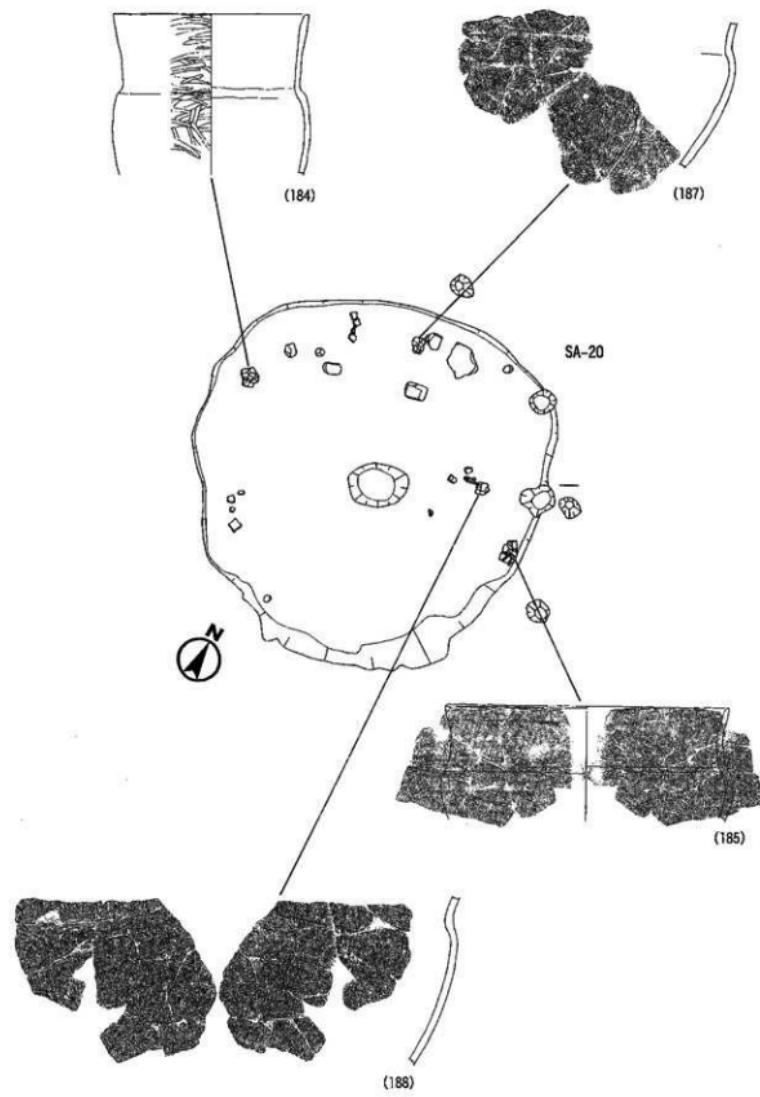
第12図 SA-17・23出土遺物地点図



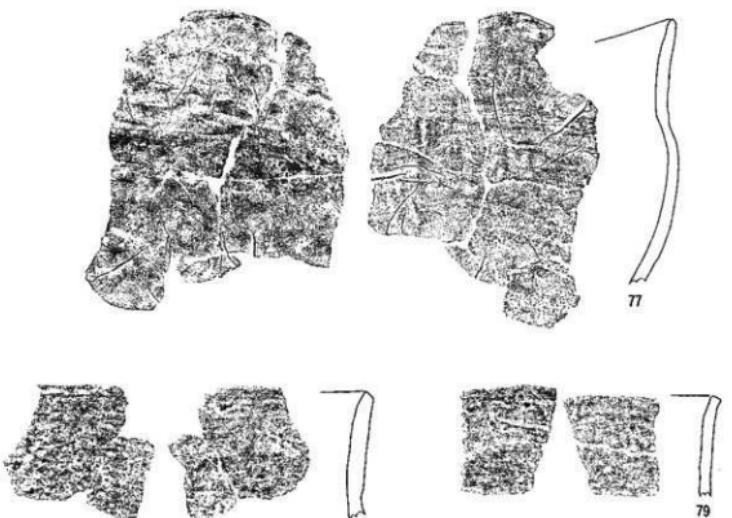
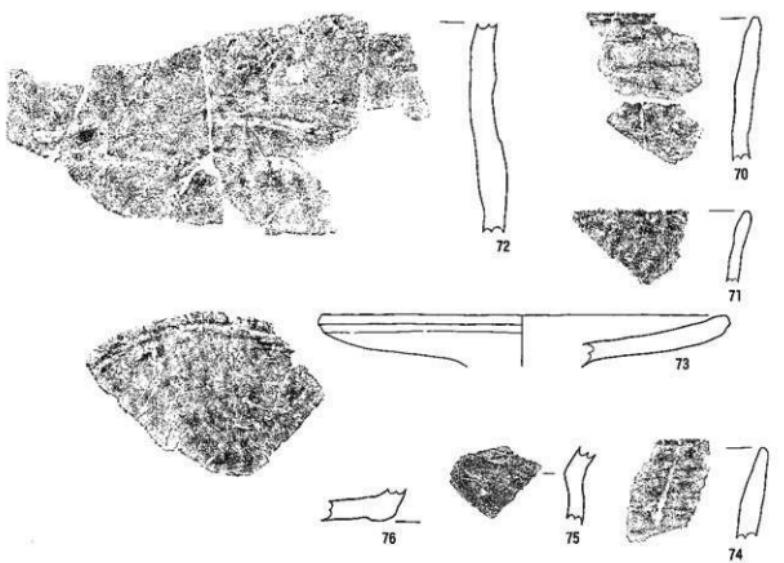
第13図 SA-21・22出土遺物地点図



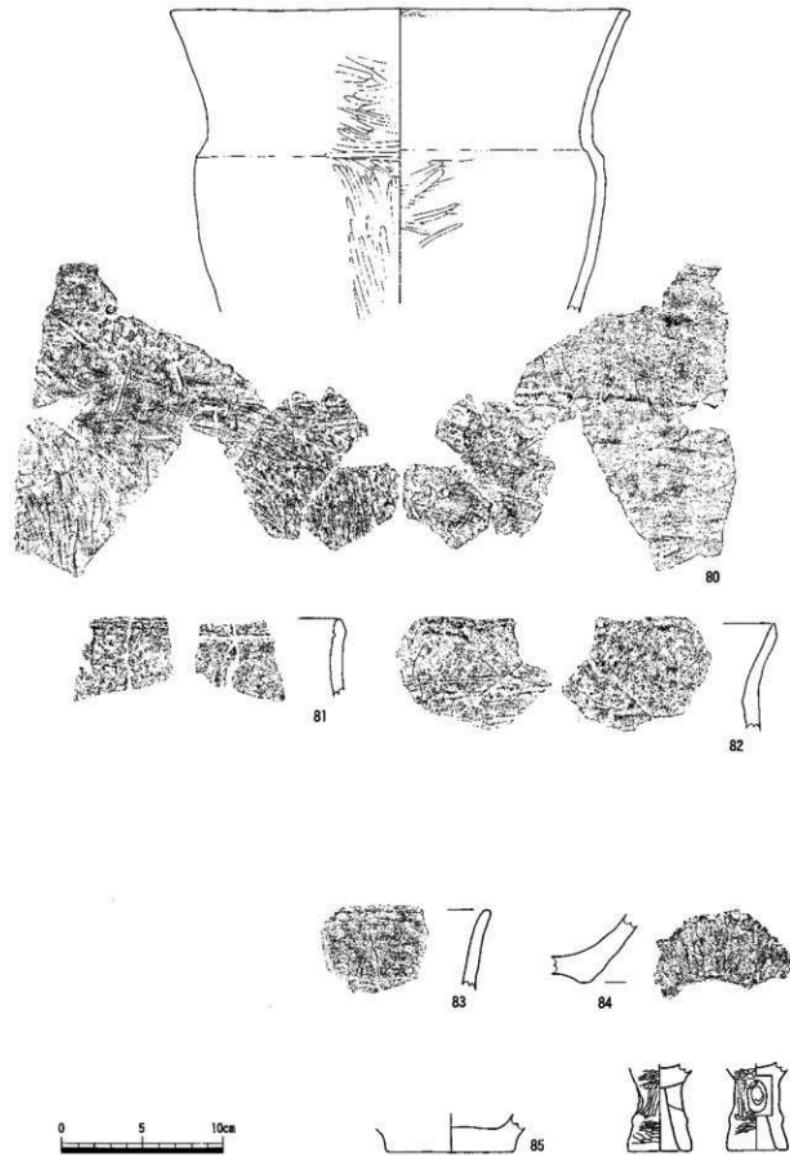
第14図 SA-19出土遺物地点図



第15図 SA-20出土遺物地点図



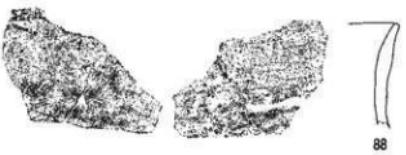
第16図 SA-02・03出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



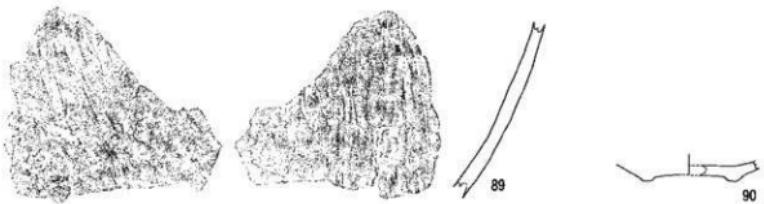
第17図 SA-03・04出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



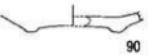
87



88



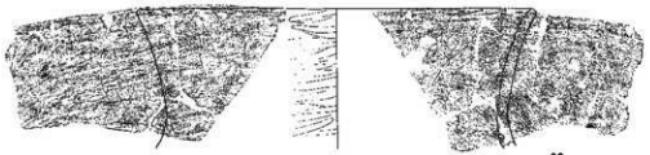
89



90



91



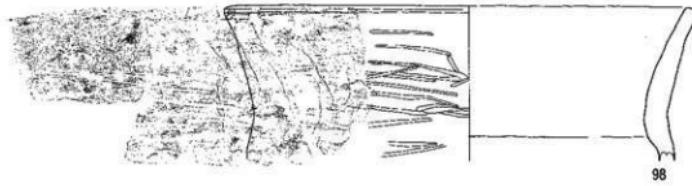
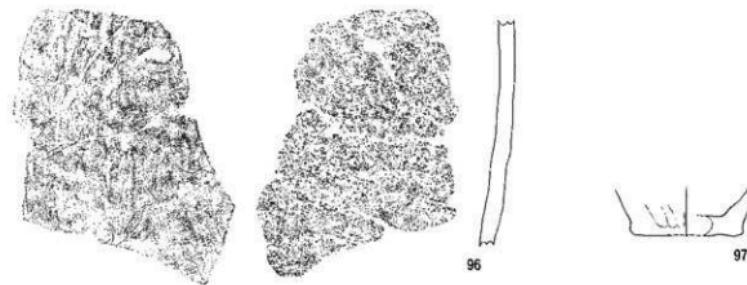
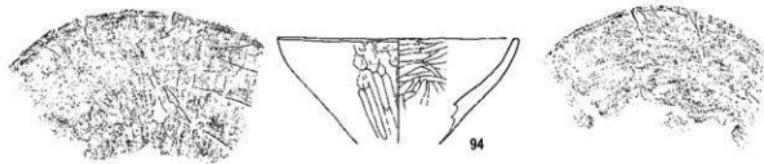
92



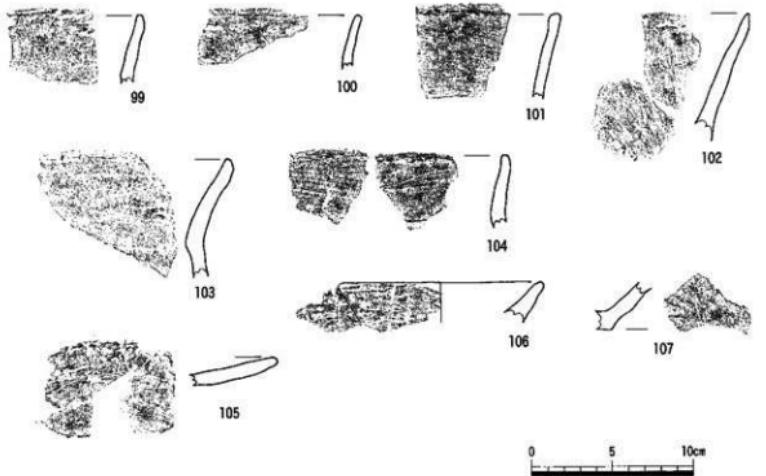
93

0 5 10cm

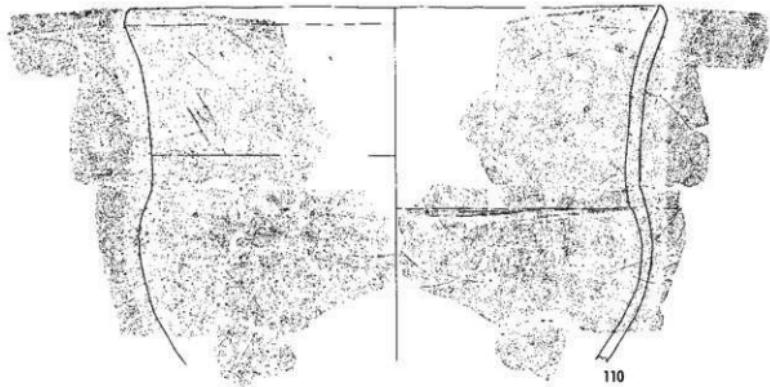
第18図 SA-05・06出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



第19図 SA-06・07出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



第20図 SA-07・08出土遺物実測図 (S = 1/3)



110



111

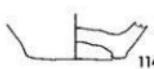
0 5 10cm



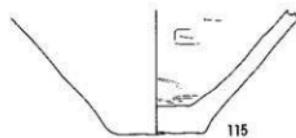
112



113

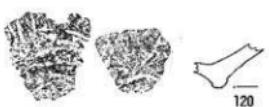
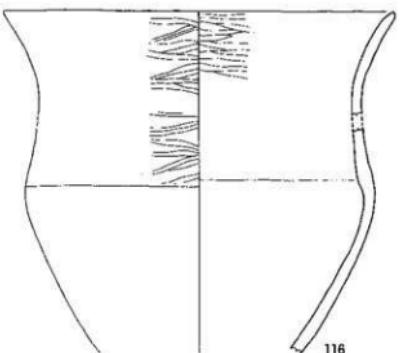


114

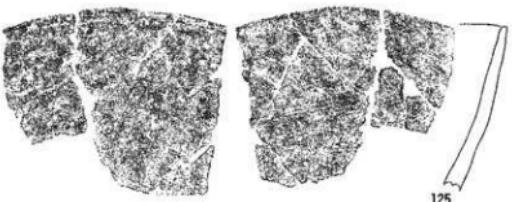
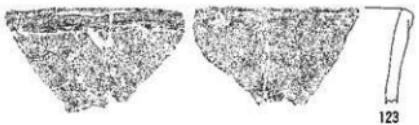


115

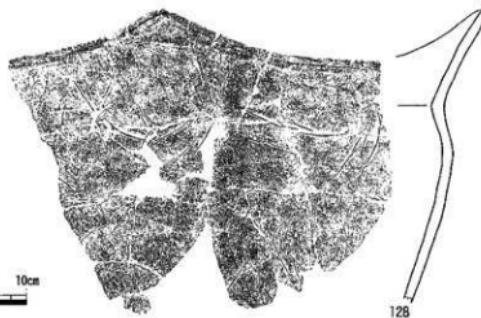
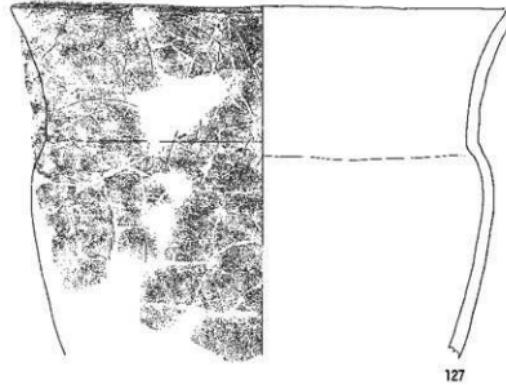
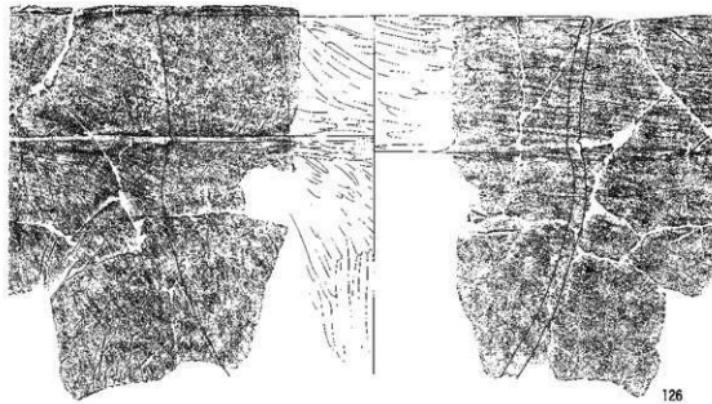
第21図 SA-08出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



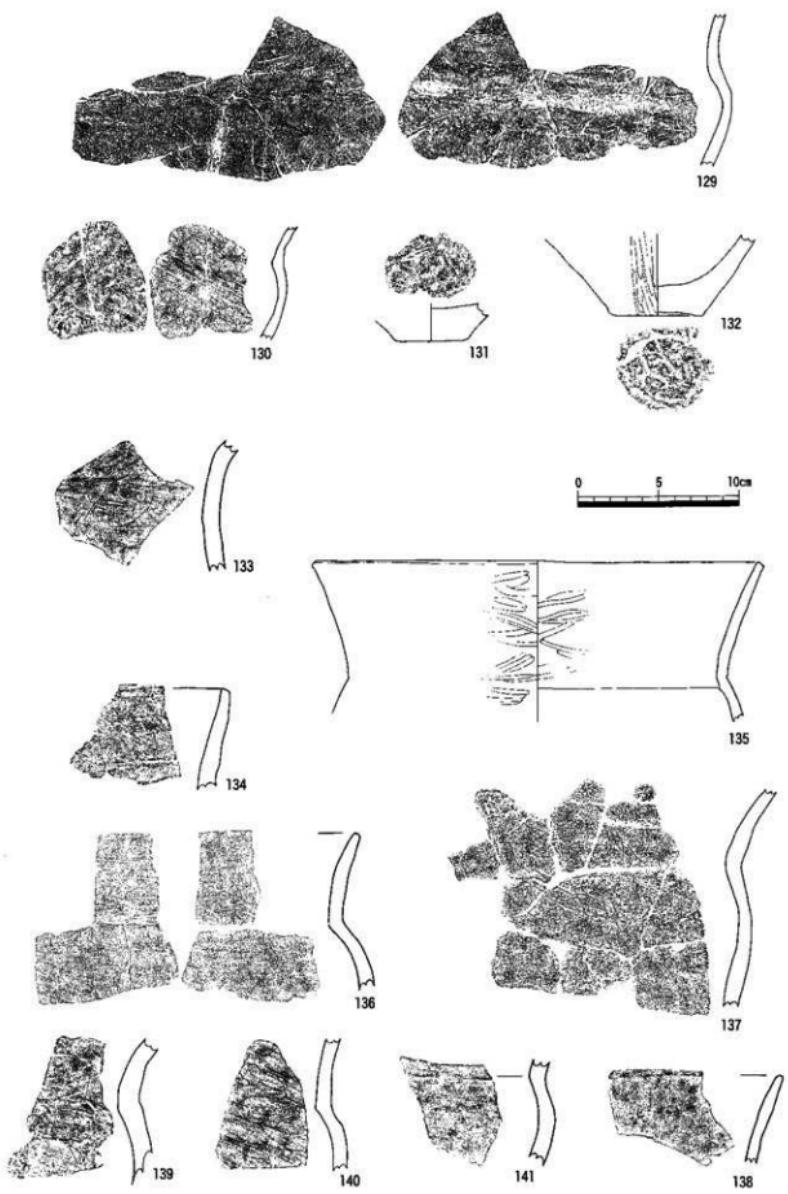
0 5 10cm



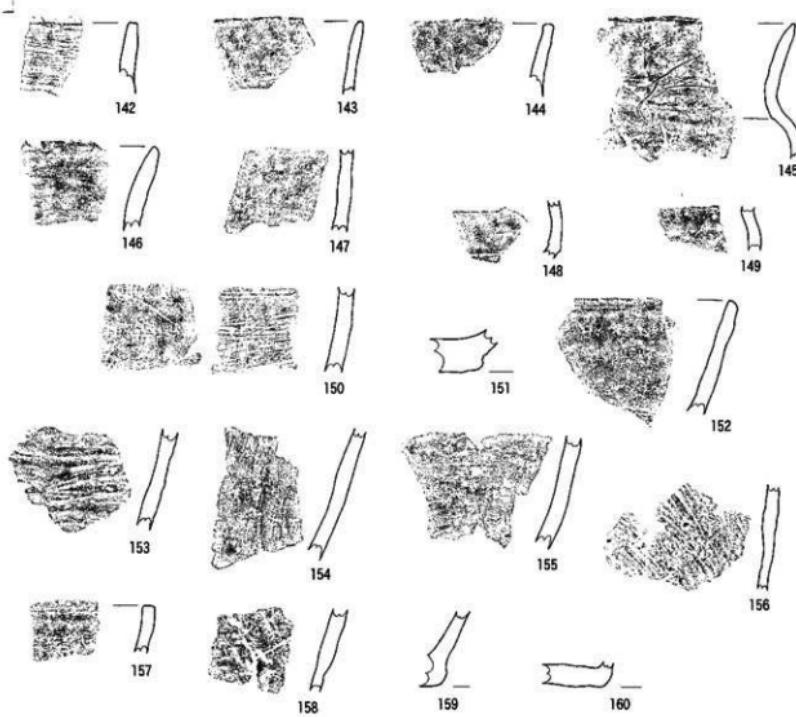
第22図 SA-09・10出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



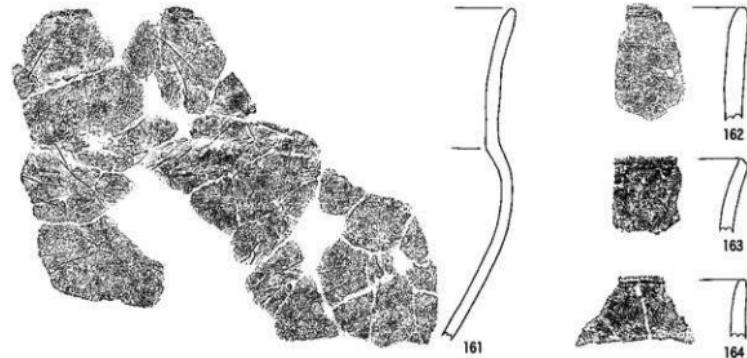
第23図 SA-10出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )



第24図 SA-10~12出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



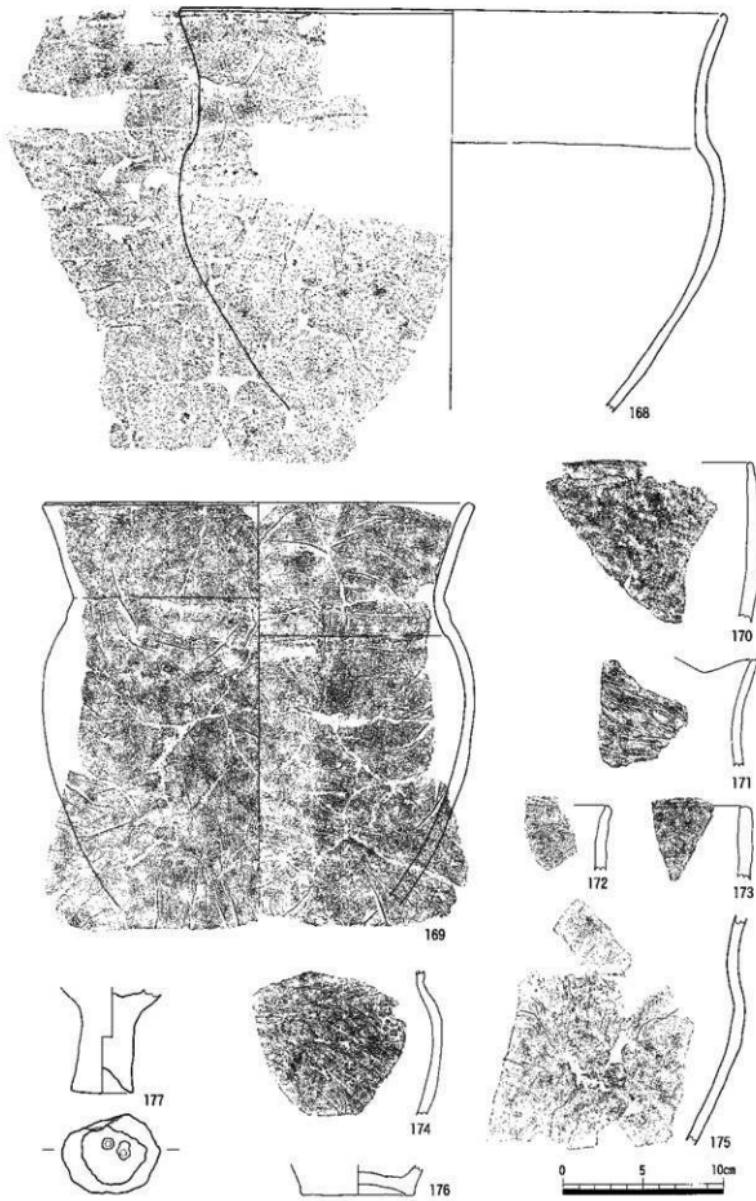
0 5 10cm



第25図 SA-14・15・17・19出土遺物実測図 (S = 1/3)



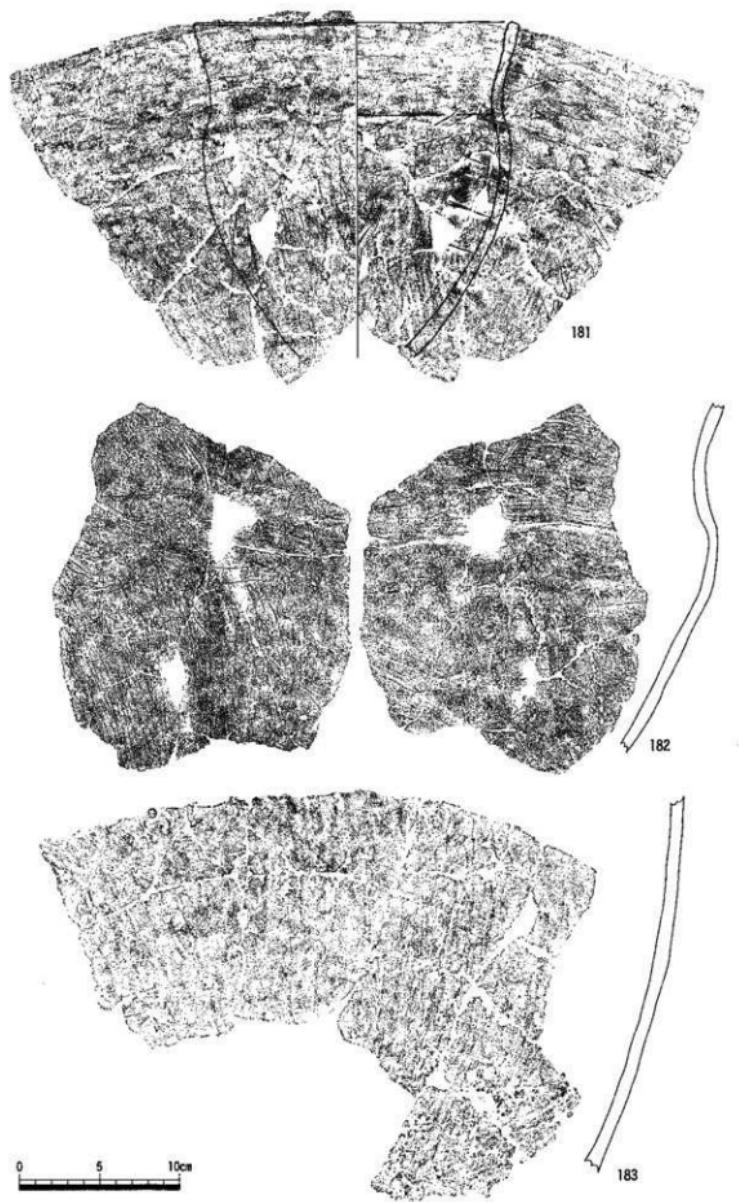
第26図 SA-19出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



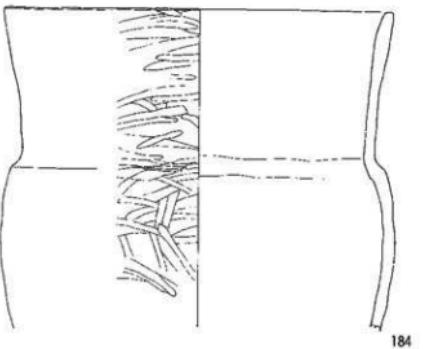
第27図 SA-19出土遺物実測図 (S = 1/3)



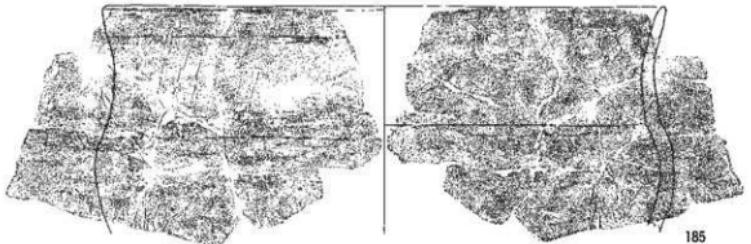
第28図 SA-19出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )



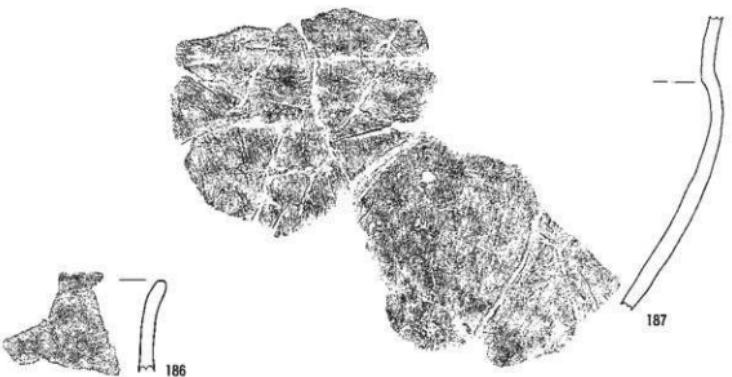
第29図 SA-19出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



184



185

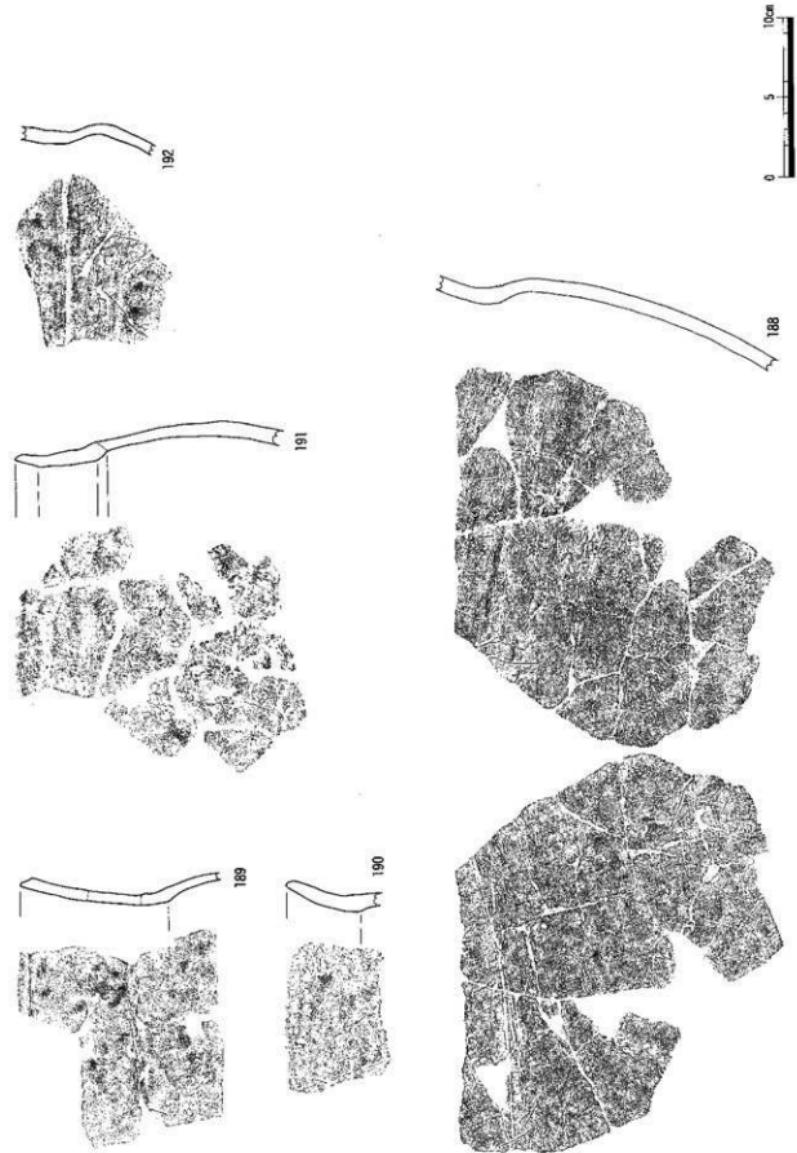


186

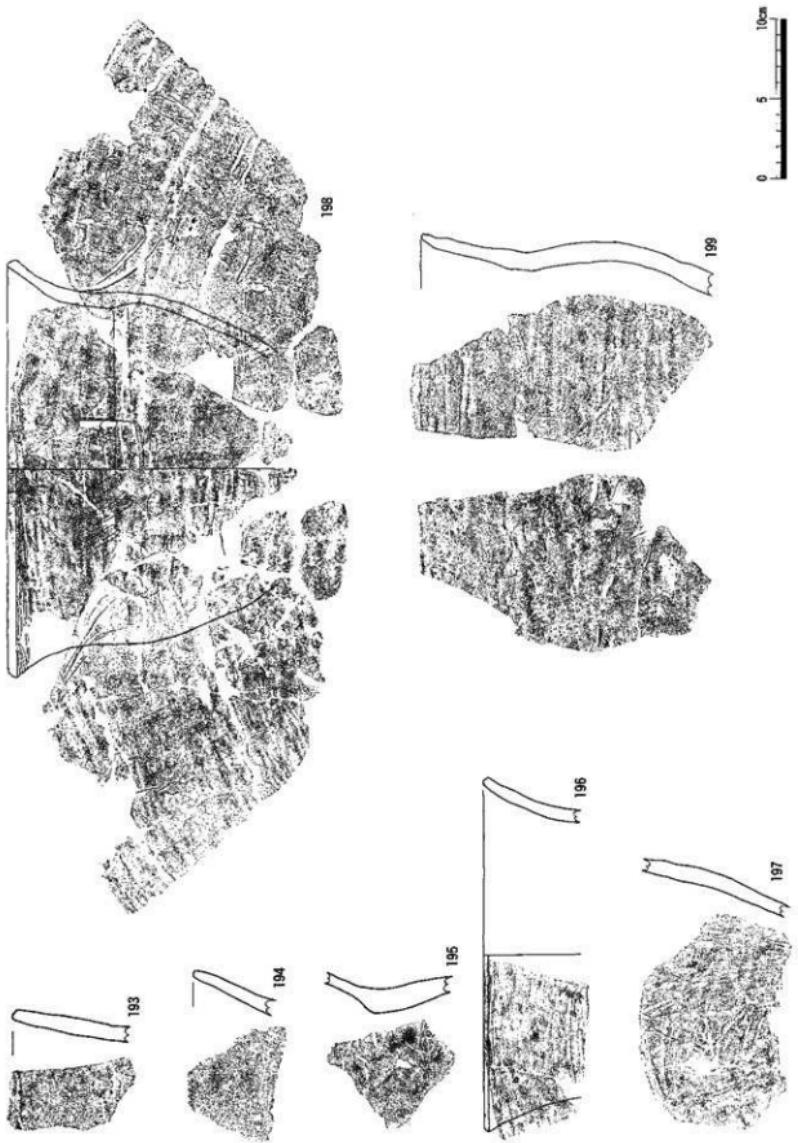
187



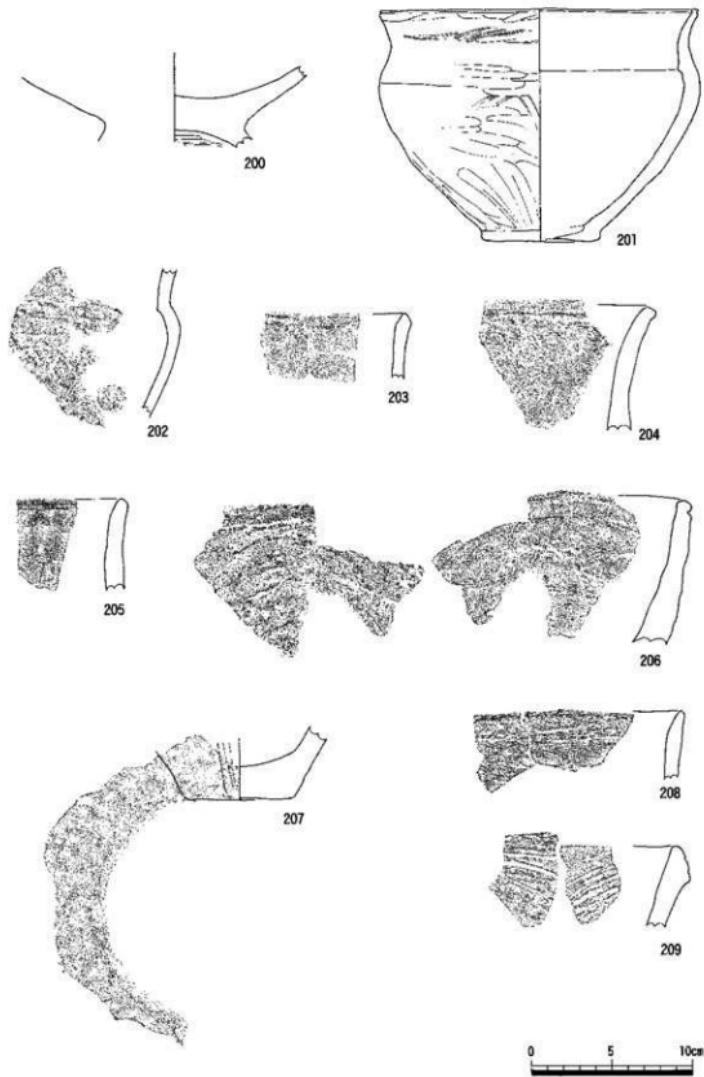
第30図 SA-20出土遺物実測図 ( $S = 1/3$ )



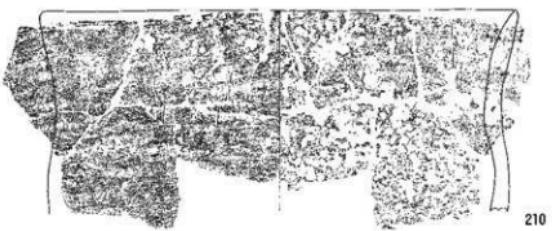
第31図 SA-20~22出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



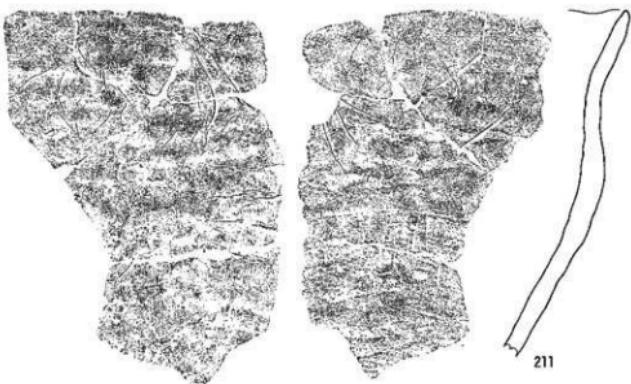
第32図 SA-23・SC-01出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



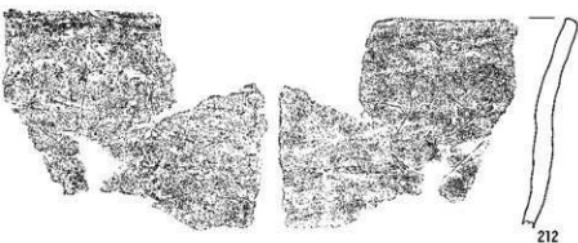
第33図 その他縄文時代後晩期の出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



210



211



212



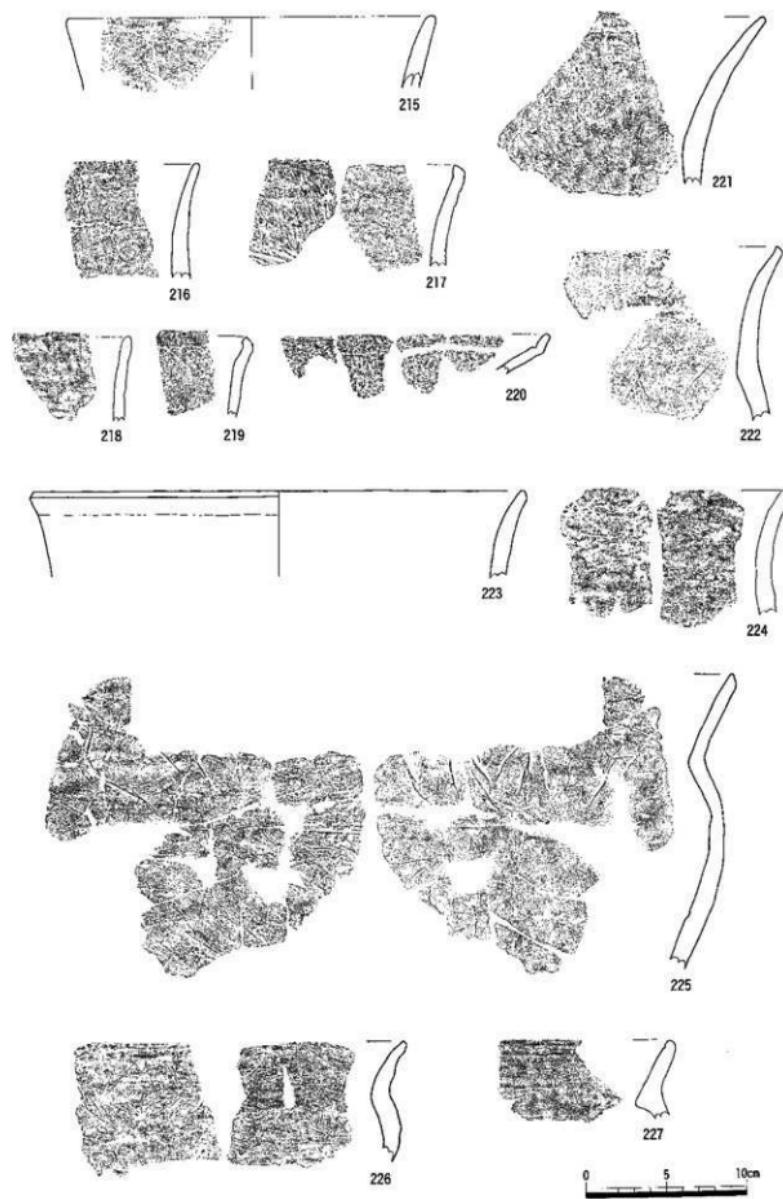
213



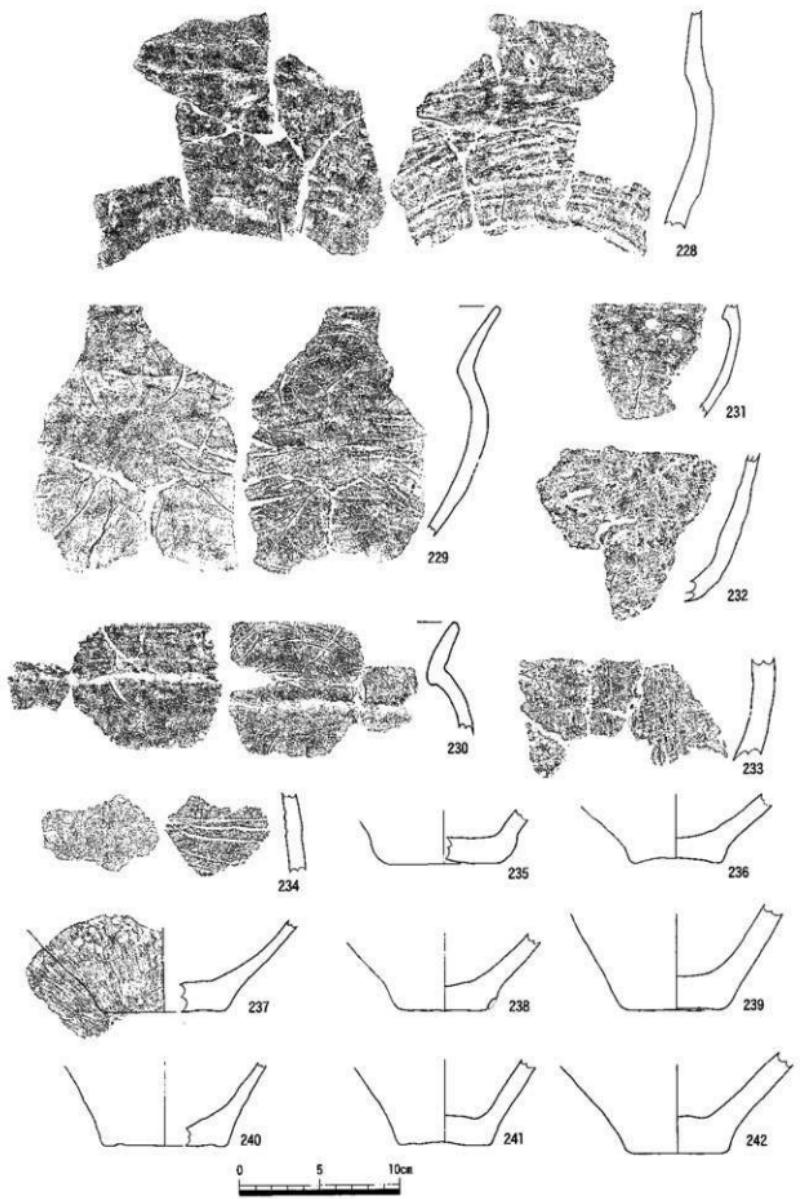
214

0 5cm

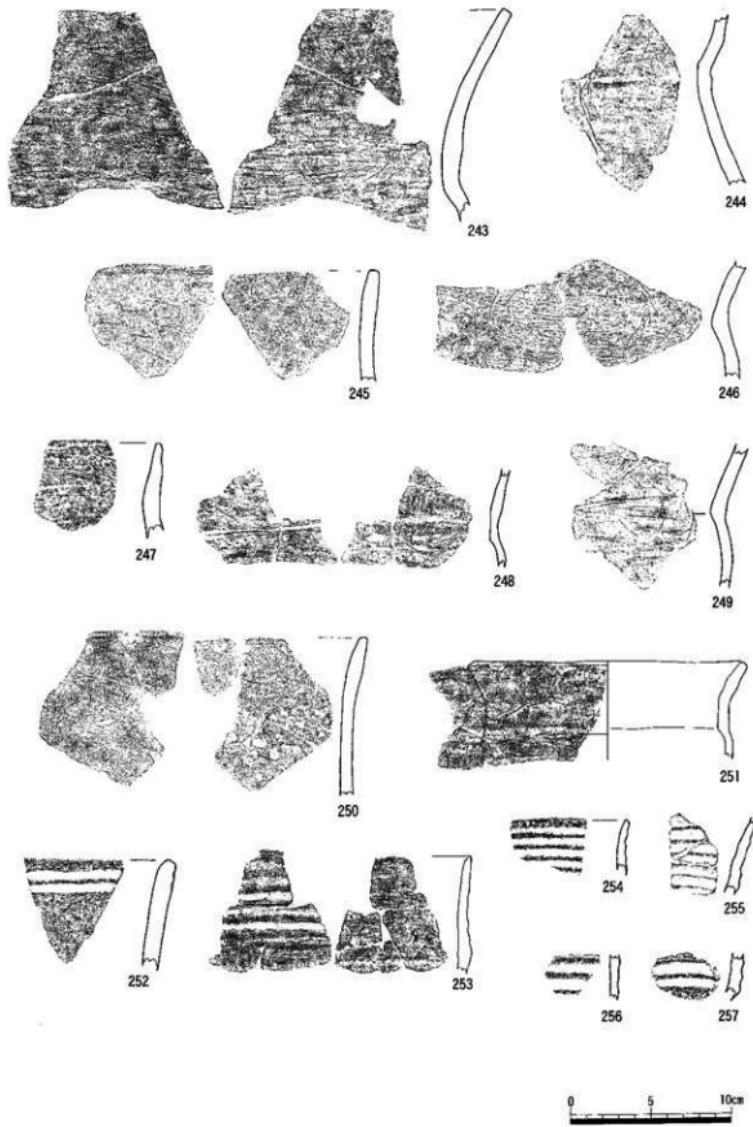
第34図 その他縄文時代後晩期の出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



第35図 その他縄文時代後晩期の出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



第36図 その他縄文時代後晩期の出土遺物実測図 (S = 1 / 3)



第37図 その他縄文時代後晩期の出土遺物実測図 (S = 1 / 3)

## 出土遺物觀察表

出土：A：瓦片 B：角穿瓦 C：石瓦 D：瓦瓦盤 E：水道瓦 F：砂輪 G：繩索 H：木炭

遺物 番号	遺物名	測定				測定				備考
		外 面	内 面	底 部	側 面	外 面	内 面	底 部	側 面	
1	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:多 B:多 C:中 D:少 E:少 F:少 G:少
2	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:多 B:中 C:少 D:中 E:少 F:少 G:少
3	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:特多 B:極 C:燃 D:中 E:少 F:少 G:少
4	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:特多 B:少 C:燃 D:中 E:少 F:少 G:少
5	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	不灰	不灰	不灰	不灰	A:多 B:少 C:少 D:中 E:少 F:少 G:少
6	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:中 B:中 C:燃 D:少 E:少 F:少 G:少
7	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:多 B:中 C:少 D:中 E:少 F:少 G:中
8	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:多 B:少 C:少 D:中 E:少 F:少 G:少
9	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:中 B:中 C:燃 D:中 E:少 F:少 G:少
10	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:多 B:少 C:少 D:中 E:少 F:少 G:少
11	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:多 B:少 C:少 D:中 E:少 F:少 G:少
12	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:多 B:少 C:少 D:中 E:少 F:少 G:少
13	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:多 B:少 C:少 D:中 E:少 F:少 G:少
14	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:多 B:少 C:少 D:中 E:少 F:少 G:少
15	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:多 B:少 C:少 D:中 E:少 F:少 G:少
16	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:特多 B:少 C:少 D:中 E:少 F:少 G:少
17	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:多 B:中 C:燃 D:中 E:少 F:少 G:少
18	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:特多 B:少 C:少 D:中 E:少 F:少 G:少
19	瓦合面 口縫部	青銅器鑄造用 鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	鋸切口の瓦板	灰	灰	灰	灰	A:多 B:少 C:少 D:中 E:少 F:少 G:少

物上ハ：墨石 C：墨鉛笔 C：墨鉛笔 D：白色墨 E：油墨 G：墨墨 H：墨墨

物 品 名 稱	顏 色	物 品 名 稱			物 品 名 稱			物 品 名 稱	物 品 名 稱
		外 面	内 面	底 部	外 面	内 面	底 部		
20 烟合烟 嘴形	深褐色	深褐色	深褐色	不灰	深褐色	深褐色	深褐色	A:多 B:少 C:少 D:中 E:少 F:中	内面化物叶茎
21 SA32(底) 烟头	口輪部 烟头	口輪部 烟头	烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	A:多 B:少 C:少 D:中 E:少 F:中	
22 SA32(底) 口輪部	口輪部 烟头	口輪部 烟头	烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	B:中 C:少 D:少 E:少	
23 SA32(底) 口輪部	口輪部 烟头	口輪部 烟头	烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	B:中 C:少 D:少 E:少	
24 SA33(底) 口輪部	口輪部 烟头	口輪部 烟头	烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	B:中 C:少 D:少 E:少	
25 SA19(底) 口輪部	口輪部 烟头	口輪部 烟头	烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	B:中 C:少 D:少 E:少	
26 SA32(底) 口輪部	口輪部 烟头	口輪部 烟头	烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	A:微 B:中 C:少 D:少 E:少	
27 SA33(底) 口輪部	口輪部 烟头	口輪部 烟头	烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	B:中 C:少 D:少 E:少	
28 SA32(底) 口輪部	口輪部 烟头	口輪部 烟头	烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	C:微 D:少 E:少	
29 SA33(底) 口輪部	口輪部 烟头	口輪部 烟头	烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	B:中 C:少 D:少 E:少	
30 B:合金烟 嘴形	烟嘴	烟嘴	烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	B:中 C:少 D:少 E:少	烟叶膏
31 SA19(底) 口輪部	口輪部 烟头	口輪部 烟头	烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	C:微 D:少 E:少	
32 SA23(底) 口輪部	口輪部 烟头	口輪部 烟头	烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	A:微 B:中 C:少 D:少 E:少	
33 SA33(底) 口輪部	口輪部 烟头	口輪部 烟头	烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	B:中 C:少 D:少 E:少	
34 SA23(底) 口輪部	口輪部 烟头	口輪部 烟头	烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	A:微 B:中 C:少 D:少 E:少	
35 -	烟嘴	烟嘴	烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	C:微 D:少 E:少	烟叶膏
36 -	烟嘴	烟嘴	烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	B:中 C:少 D:少 E:少	
37 -	烟嘴	烟嘴	烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	B:中 C:少 D:少 E:少	
38 -	烟嘴	烟嘴	烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	B:中 C:少 D:少 E:少	
39 B:合金烟 嘴形	烟嘴	烟嘴	烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	A:微 B:中 C:少 D:少 E:少	
40 SA33(底) 口輪部	口輪部 烟头	口輪部 烟头	烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	深褐色 烟头	B:中 C:少 D:少 E:少	
41 C:合金烟 嘴形	烟嘴	烟嘴	烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	深褐色 烟嘴	A:微 B:中 C:少 D:少 E:少	烟叶膏





地圖 (A)：長石 B：鈣長石 C：不純 C：不純 D：自角岩 E：綠色鉀長石 F：綠色 G：黑長石 H：玄武岩

地物 番号	地物名	外觀			地成	外觀			地質	土	備考
		面	底	內		面	底	內			
85	S404	風化 圓滑	不明	17°	風成	17°	無	(587/6~7/8)	花崗岩	D:中	F:多
86	S404	風化 圓滑	17°+	無	風成	17°	無	(587/6~7/8)	花崗岩	A:微	F:少
87	S403	風化 圓滑	不明	17°+	風成	17°	無	(2, 587/4~5/1)	花崗岩	A:微	F:少
88	S405	風化 圓滑	17°	不明	風成	17°	無	(10YR17/1)	花崗岩	A:微	F:少
89	S405	風化 圓滑	17°+	無	風成	17°	無	(7, 587/4~5/1)	花崗岩	A:少	F:多
90	S405	風化 圓滑	17°	無	風成	17°	無	(10YR17/0)	花崗岩	A:微	F:少
91	S406	山體部 17°	17°	無	風成	17°	無	17.5%~18% (10YR17/3)	花崗岩	C:微	F:少
92	S406	口輪形 17°	17°	無	風成	17°	無	(587/8)	花崗岩	B:微	F:中
93	S406	口輪形 17°	17°	無	風成	17°	無	(587/1)	花崗岩	A:中	C:多
94	S406	口輪形 17°	17°	無	風成	17°	無	(7, 587/2)	花崗岩	A:微	F:微
95	S406	口輪形 17°	17°	不明	風成	17°	無	(7, 587/1)	花崗岩	A:微	F:少
96	S406	源頭 17°	17°	不明	風成	17°	無	(7, 587/6~7/1)	花崗岩	A:微	F:中
97	S406	風化 圓滑	17°	無	風成	17°	無	17.5%~18% (10YR17/4)	花崗岩	C:中	D:微
98	S407	口輪形 17°	17°	無	風成	17°	無	(587/6)	花崗岩	A:少	E:多
99	S407	口輪形 17°	17°	無	風成	17°	無	(587/6)	花崗岩	C:微	F:微
100	S407	口輪形 17°	17°	無	風成	17°	無	(7, 587/1)	花崗岩	A:微	F:微
101	S407	口輪形 17°	17°	無	風成	17°	無	(587/2)	花崗岩	F:微	C:微
102	S407	口輪形 17°	17°	無	風成	17°	無	(587/2)	花崗岩	B:微	G:少
103	S407	口輪形 17°	17°	無	風成	17°	無	(1, 587/4)	花崗岩	A:少	F:中
104	S407	口輪形 17°	17°	無	風成	17°	無	(587/3)	花崗岩	C:微	F:微
105	S407	口輪形 17°	17°	無	風成	17°	無	(587/2)	花崗岩	F:微	G:少
106	S407	口輪形 17°	17°	無	風成	17°	無	(7, 587/6)	花崗岩	A:微	F:微

新土 A：灰石 B：海因石 C：方英石 D：白云母 E：长石 F：绿泥石 G：黑云母 H：铁铝榴石									
(特征：颗粒多量，中等，少；少量，微)									
类别	岩相名	颗粒	外 出	内 出	施灰	外 壳	内 壳	胎 土	偏 光
107	S407	砾石	15°			灰	灰白色 (G.515E.2)	白	0:微 F:微
108	S408	口砾石~ 15°	15°			灰	灰白色 (G.515E.2)	白	0:微 F:微
109	S408	口砾石~ 15°	15°	口砾石混杂：15°	灰	灰白色 (G.515E.2)	白	0:微 F:微	黑色带砾系
110	S408	口砾石~ 15°	15°	不均	灰	灰白色 (G.515E.4)	白	0:微 F:微	黑色带砾系
111	S408	口砾石~ 15°	15°	15°	灰	灰白色 (G.515E.4)	白	0:微 F:微	黑色带砾系
112	S408	砾石	15°			灰	灰白色~黑褐色 (G.515E.4~7.517E.1)	白	0:微 F:微
113	S408	砾石	15°	15°		灰	灰白色 (G.515E.4)	白	0:微 F:微
114	S408	砾石	15°	15°		灰	灰白色 (G.515E.4)	白	0:微 F:微
115	S408	砾石	15°	15°		灰	灰白色 (G.515E.6)	白	0:微 F:微
116	S409	口砾石~ 15°	15°	不均	灰	灰白色~黑褐色 (G.515E.6~3.1)	白	0:中 C:少 U:多 F:少	黑色带砾系
117	S409	砾石	15°			灰	灰白色 (G.515E.6)	白	0:少 B:微 C:多 D:多 F:多
118	S409	砾石	15°			灰	灰白色 (G.515E.2)	白	0:少 B:微 C:少 F:少
119	S409	砾石	15°			灰	灰白色 (G.515E.2)	白	0:中 C:微 D:少 F:少
120	S409	砾石	15°	15°		灰	灰白色 (G.515E.2)	白	0:中 C:微 D:少 F:少
121	S410	口砾石	15°	15°		灰	灰白色~黑褐色 (G.515E.2~7.1)	白	0:微 F:少 G:微
122	S410	口砾石	15°	15°		灰	灰白色 (G.515E.6)	白	0:微 F:少 G:少
123	S410	口砾石	15°			灰	灰白色 (G.515E.6)	白	0:微 F:少 G:少
124	S410	口砾石	15°	15°		灰	灰白色 (G.515E.1)	白	0:微 F:少 G:少
125	S410	口砾石~ 15°	15°			灰	灰白色 (G.515E.4)	白	0:微 F:少 G:微
126	S410	口砾石~ 15°	15°			灰	灰白色 (G.515E.2)	白	0:中 B:微 C:少 F:少 G:少
127	S410	口砾石~ 15°	15°			灰	灰白色~褐色 (G.515E.6~7.1)	白	0:多 B:少 F:少
128	S410	口砾石~ 15°	15°			灰	灰白色 (G.515.2)	白	0:微 B:中 F:少 G:少

检定(A: 岩石 B: 砂岩 C: 砂砾 D: 白色砂 E: 黄色砂 F: 淡黄 G: 泥质 H: 混合)

动物 属名 种名	通称名	栖地	外 面	内 面	地成	外 面 (7.5YR 5/3~4/2)	内 面 (7.5YR 5/3~4/2)	颜色 类别	层			层 号		
									上	中	下			
129 SA10	砾石	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰色-灰褐色	A: 多	B: 少	C: 多	D: 少	F: 多	砾付带
130 SA10	砾石	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	A: 多	B: 中	C: 灰	D: 中	E: 中	黑色带砾带
131 SA10	砾石	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	C: 微	D: 微	E: 微	F: 中		砾付带
132 SA10	砾石	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	A: 多	B: 中	C: 微	D: 中	E: 中	砾付带
133 SA11	砾石	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	A: 微	B: 微	C: 微	D: 微	E: 微	砾付带
134 SA12	口砾带	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	A: 微	B: 微	C: 微	D: 微	E: 微	砾付带
135 SA12	口砾带~	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	A: 微	B: 少	C: 微	D: 少	E: 少	砾付带
136 SA12	口砾带~	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	B: 少	C: 微	D: 微	E: 微	F: 微	砾付带
137 SA12	砾石	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	C: 微	D: 微	E: 微	F: 微	G: 微	砾付带
138 SA12	口砾带	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	D: 微	E: 微	F: 微	G: 微	H: 微	砾付带
139 SA12	砾石	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	E: 微	F: 微	G: 微	H: 微	I: 微	砾付带
140 SA12	砾石	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	F: 微	G: 微	H: 微	I: 微	J: 微	砾付带
141 SA12	砾石	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	G: 微	H: 微	I: 微	J: 微	K: 微	砾付带
142 SA14	口砾带	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	H: 微	I: 微	J: 微	K: 微	L: 微	砾付带
143 SA14	口砾带	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	I: 微	J: 微	K: 微	L: 微	M: 微	砾付带
144 SA14	口砾带	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	J: 微	K: 微	L: 微	M: 微	N: 微	砾付带
145 SA14	口砾带~	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	K: 微	L: 微	M: 微	N: 微	O: 微	砾付带
146 SA15	口砾带	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	L: 微	M: 微	N: 微	O: 微	P: 微	砾付带
147 SA15	砾带	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	M: 微	N: 微	O: 微	P: 微	Q: 微	砾付带
148 SA15	砾带	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	N: 微	O: 微	P: 微	Q: 微	R: 微	砾付带
149 SA15	砾带	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	O: 微	P: 微	Q: 微	R: 微	S: 微	砾付带
150 SA15	砾带	沙子	沙子	沙子	不明显	灰	灰	灰褐色	P: 微	Q: 微	R: 微	S: 微	T: 微	砾付带

地主 (A: 爪瓦 B: 亞齊 C: 沙巴 D: 白色組 E: 沙色組 F: 黑色組 G: 雷州 H: 未定)

物 種 名 學 名	產 地 出 處	外 面	內 面	施成	色 調		地 上	備 考
					外 面	內 面		
151 SAI5 腹部	爪哇	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	深黃褐色 (7.5YR 6/6)	A: 暗 C: 暗 F: 少	
152 SAI7 口緣部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	黑褐色 (5YR 3/1)	褐色 (5YR 6/6)	D: 暗 F: 暗	
153 SAI7 腹部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	褐色 (7.5YR 6/6)	B: 暗 D: 暗 F: 暗	
154 SAI7 腹部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	褐色 (7.5YR 6/6)	A: 暗 F: 暗	
155 SAI7 腹部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	褐色 (7.5YR 6/6)	A: 暗 C: 暗 F: 少	
156 SAI7 腹部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	褐色 (7.5YR 6/6)	A: 少 C: 少 F: 少	
157 SAI7 口緣部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	明水黑色 (5YR 6/6)	F: 暗	深打繩
158 SAI7 胸部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	黑褐色 (5YR 1/1)	A: 少 D: 暗 F: 少	
159 SAI7 底部	不明	不明	不明	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	褐色 (7.5YR 6/6)	C: 暗 D: 暗 F: 少	
160 SAI7 腹部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	褐色 (7.5YR 6/6)	A: 暗 F: 暗	
161 SAI9 口緣部~	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	深黃褐色 (7.5YR 6/3)	A: 暗 B: 暗 E: 暗 F: 多	
162 SAI9 口緣部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	褐色 (7.5YR 6/6)	B: 暗 C: 暗 D: 暗 F: 少	
163 SAI9 口緣部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	褐色 (7.5YR 6/6)	A: 暗 D: 暗 F: 少	深打繩
164 SAI9 口緣部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	深黃褐色 (7.5YR 6/6)	B: 少 C: 暗 D: 少 F: 少	
165 SAI9 口緣部~	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	深黃褐色 (7.5YR 6/6)	A: 暗 B: 少 E: 少 F: 多	深打繩
166 SAI9 胸部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	深黃褐色 (7.5YR 6/6)	B: 暗 D: 暗 E: 多 F: 多	深打繩
167 SAI9 腹部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	深黃褐色 (7.5YR 6/6)	A: 少 B: 暗 C: 暗 D: 暗 F: 多	深打繩
168 SAI9 口緣部~	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6~10YR 1/1)	褐色~深黃褐色 (7.5YR 6/6~10YR 1/1)	A: 少 B: 暗 C: 暗 D: 暗 E: 少 F: 多	深打繩
169 SAI9 口緣部~	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/4)	褐色 (7.5YR 6/4)	C: 暗 D: 暗 F: 中	深打繩
170 SAI9 口緣部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/6)	深黃褐色 (7.5YR 6/3)	A: 暗 B: 中 C: 暗 D: 中 F: 中 G: 暗	
171 SAI9 口緣部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/3)	深黃褐色 (7.5YR 6/3)	C: 少 D: 中 F: 少	
172 SAI9 口緣部	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑	全~不具 (7.5YR 6/1)	深黃褐色 (7.5YR 6/1)	A: 暗 B: 少 C: 中	

地土 (A: 黄土 B: 灰化土 C: 石灰 D: 白色砂 E: 油质土 F: 酸性 G: 露风 H: 大风)

物 种 名	形态	地 形				外 面 色				内 面 色				地 带
		外 面 形	内 面 形	地 形	外 面 黑褐色 (10YR2/2)	内 面 黑褐色 (7.5YR2/2)	外 面 黑褐色 (10YR2/2)	内 面 黑褐色 (7.5YR2/2)	外 面 黑褐色 (10YR2/2)	内 面 黑褐色 (7.5YR2/2)	外 面 黑褐色 (10YR2/2)	内 面 黑褐色 (7.5YR2/2)		
173 S419 口触部	圆柱形	↑↑'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
174 S419 腿部	柱状	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
175 S419 胸部	圆柱形	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
176 S419 腹部	块状	块状	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
177 S419 腿部	柱状	↑↑'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
178 S419 口触部~	口触部~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
179 S419 腿部	柱状~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
180 S419 口触部	柱状	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
181 S419 口触部~	口触部~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
182 S419 腿部	柱状~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
183 S419 腿部	柱状~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
184 S420 口触部	柱状	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
185 S420 口触部~	口触部~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
186 S420 口触部	柱状~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
187 S420 腿部	柱状~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
188 S420 腿部	柱状~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
189 S421 口触部~	口触部~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
190 S422 口触部	柱状~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
191 S422 口触部~	口触部~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
192 S422 腿部	柱状~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
193 S423 口触部	柱状~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带
194 S423 口触部	柱状~	↓↓'	↑↑'	丘	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	灰	干燥带



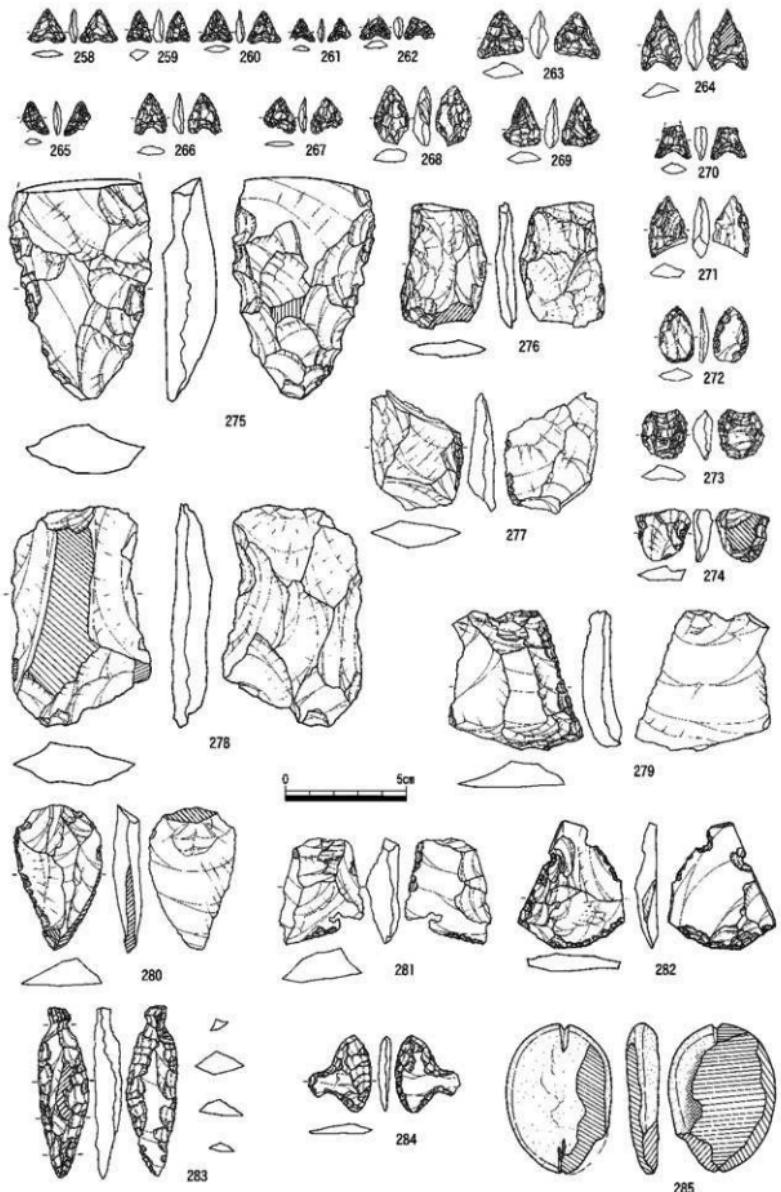
植物 (A: 茎生, B: 叶生, C: 小枝, D: 口: 白色, E: 黄白色, F: 红色, G: 黑色, H: 灰色)

(特多, 多, 适量, 少, 少量, 无, 淡)

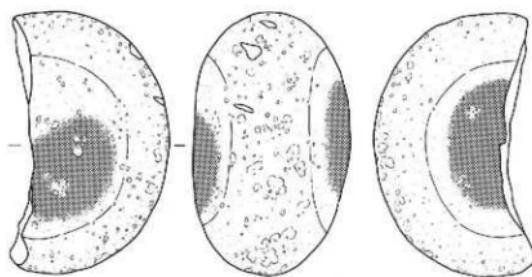
植物 番号	被毛情况	茎部	外 面	内 面	瓶状	外面	内 面	瓶状	颜色			地 壤	偏 斜
									C: 橙红色	D: 黄褐色	E: 黄褐色		
217	C: 毛乳	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10786/4)]	[D: 黄褐色 (10786/6)]	[E: 黄褐色 (10786/4)]	F: 黑	强针刺
218	C: 毛乳	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10786/4)]	[D: 黄褐色 (10786/6)]	[E: 黄褐色 (10786/4)]	F: 黑	强针刺
219	C: 毛乳	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10786/6)]	[D: 黄褐色 (10786/6)]	[E: 黄褐色 (10786/6)]	F: 少	强针刺
220	B: 包含层	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10786/4)]	[D: 黄褐色 (10786/6)]	[E: 黄褐色 (10786/4)]	F: 中	强针刺
221	C: 合生肉	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10786/6)]	[D: 黄褐色 (10786/6)]	[E: 黄褐色 (10786/4)]	F: 多	强针刺
222	C: 毛乳	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10786/6)]	[D: 黄褐色 (10786/6)]	[E: 黄褐色 (10786/6)]	F: 少	强针刺
223	C: 毛乳	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10786/6)]	[D: 黄褐色 (10786/6)]	[E: 黄褐色 (10786/6)]	F: 中	强针刺
224	C: 毛乳	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10784/3)]	[D: 黄褐色 (10784/3)]	[E: 黄褐色 (10784/3)]	F: 中	强针刺
225	B: 包含层	口被毛~ H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色~ 黄褐色 (10786/6~10785/2)]	[D: 黄褐色~ 黄褐色 (10786/6~10785/2)]	[E: 黄褐色~ 黄褐色 (10786/6~10785/2)]	F: 少	强针刺
226	B: 包含层	口被毛~ H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10785/4)]	[D: 黄褐色 (10785/6)]	[E: 黄褐色 (10785/6)]	F: 少	强针刺
227	C: 毛乳	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10786/6)]	[D: 黄褐色 (10786/6)]	[E: 黄褐色 (10786/6)]	A: 多	强针刺
228	C: 毛乳	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10786/6)]	[D: 黄褐色 (10786/6)]	[E: 黄褐色 (10786/6)]	F: 中	强针刺
229	B: 包含层	口被毛~ H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色~ 黄褐色 (10786/4~10784/2)]	[D: 黄褐色~ 黄褐色 (10786/4~10784/2)]	[E: 黄褐色~ 黄褐色 (10786/4~10784/2)]	F: 少	强针刺
230	B: 包含层	口被毛~ H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10786/4)]	[D: 黄褐色 (10786/6)]	[E: 黄褐色 (10786/6)]	F: 少	强针刺
231	C: 毛乳	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10786/6)]	[D: 黄褐色 (10786/6)]	[E: 黄褐色 (10786/6)]	F: 少	强针刺
232	C: 包含层	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色~ 黄褐色 (10786/4~10784/2)]	[D: 黄褐色~ 黄褐色 (10786/4~10784/2)]	[E: 黄褐色~ 黄褐色 (10786/4~10784/2)]	F: 少	强针刺
233	C: 毛乳	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10786/6)]	[D: 黄褐色 (10786/6)]	[E: 黄褐色 (10786/6)]	F: 少	强针刺
234	C: 毛乳	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色~ 黄褐色 (10786/4~10787/4)]	[D: 黄褐色~ 黄褐色 (10786/4~10787/4)]	[E: 黄褐色~ 黄褐色 (10786/4~10787/4)]	F: 少	强针刺
235	C: 包含层	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10787/4)]	[D: 黄褐色 (10787/4)]	[E: 黄褐色 (10787/4)]	F: 少	强针刺
236	C: 包含层	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10786/6)]	[D: 黄褐色 (10786/6)]	[E: 黄褐色 (10786/6)]	F: 多	强针刺
237	C: 毛乳	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10786/6)]	[D: 黄褐色 (10786/6)]	[E: 黄褐色 (10786/6)]	F: 多	强针刺
238	C: 毛乳	口被毛 H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		H <sup>+</sup>	H <sup>+</sup>		[C: 橙红色 (10787/4)]	[D: 黄褐色 (10787/4)]	[E: 黄褐色 (10787/4)]	F: 多	强针刺

松土 (A: 灰石 B: 橄榄石 C: 透辉石 D: 白色泥 E: 深色泥 F: 浅色泥 G: 铁母 H: 淡灰)

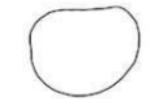
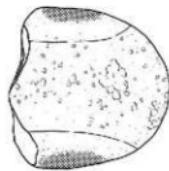
植物 番号	通称名	部位	外 面 文様	内 面 文様	地成	色			備 考
						外 面	内 面	調	
239	C透石	底部	不明	↑↑	不明	やや不良	褐色 (7.5V8E/6)	褐色 (7.5V8E/6)	B:微 C:微 D:微 E:中
240	C包含層	底部	不明	↑↑	不良	不良	褐色 (10V7.4~7.5V8E/8)	褐色 (2.5V7/2)	A:少 C:中 D:微 E:多
241	C橄欖石	底部	↑↑	↑↑	良	↑↑	褐色 (10V7/4)	褐色 (1.5V7/3)	B:微 F:中
242	C透石	底部	不明	↑↑	不明	やや不良	褐色 (10V8E/4)	褐色 (1.5V7/4)	A:微 B:少 F:多
243	C透石	↑↑↑↑	↑↑	↑↑	良	↑↑	褐色 (5V8E/1)	褐色 (5V7/8)	A:中 B:中 C:中 D:少 F:中 G:微
244	B包含層	底部	↑↑	↑↑	良	↑↑	褐色 (5V8E/2)	褐色 (5V8E/2)	A:微 B:中 F:多
245	C橄欖石	口縫部	↑↑	↑↑	良	↑↑	褐色 (10V2/1)	褐色 (1.5V7/1)	B:微 G:少
246	C橄欖石	底部	↑↑	↑↑	良	↑↑	褐色 (5V8E/1)	褐色 (5V7/2)	A:少 B:中 F:中
247	B包含層	口縫部	↑↑	↑↑	良	↑↑	褐色 (7.5V8E/4)	褐色 (7.5V8E/6)	B:微 F:少
248	C	底部	↑↑	↑↑	不明	↑↑	褐色 (5V8E/4)	褐色 (5V7/1)	A:少 C:微 F:中 G:微
249	C橄欖石	底部	↑↑	↑↑	不明	↑↑	褐色 (5V8E/4)	褐色 (5V8E/6)	C:微 F:少 H:微
250	C橄欖石	口縫部	↑↑	↑↑	不明	↑↑	褐色 (10V3/1)	褐色 (1.5V7/4)	A:微 B:微 F:中
251	C橄欖石	口縫部~	↑↑	↑↑	良	↑↑	褐色 (7.5V8/2)	褐色 (7.5V8/2)	A:少 B:中 F:中
252	-	口縫部	↑↑	↑↑	良	↑↑	明茶褐色 (5V8E/6)	明茶褐色 (7.5V8E/6)	A:少 C:中 F:多
253	C橄欖石	口縫部	↑↑	↑↑	良	↑↑	褐色 (7.5V8/3)	褐色 (7.5V8/2)	C:少 D:微 F:少
254	B包含層	口縫部	↑↑	↑↑	良	↑↑	灰褐色~深褐色 (2.5V8E/2~10V8E/2)	灰褐色 (10V8E/2)	B:少 C:少 D:中
255	B包含層	底部	↑↑	↑↑	良	↑↑	黑色 (5V8E/1)	黑色 (5V8E/1)	F:微 G:微
256	C	底部	↑↑	↑↑	良	↑↑	黑色 (10V2/1)	黑色 (2.5V7/1)	F:微
257	B包含層	底部	↑↑	↑↑	良	↑↑	黑色 (10V8E/2)	黑色 (7.5V8E/6~10V8E/1)	B:微 F:少 G:微



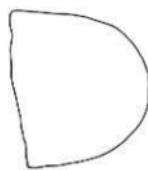
第38図 繩文時代出土遺物実測図（石器）



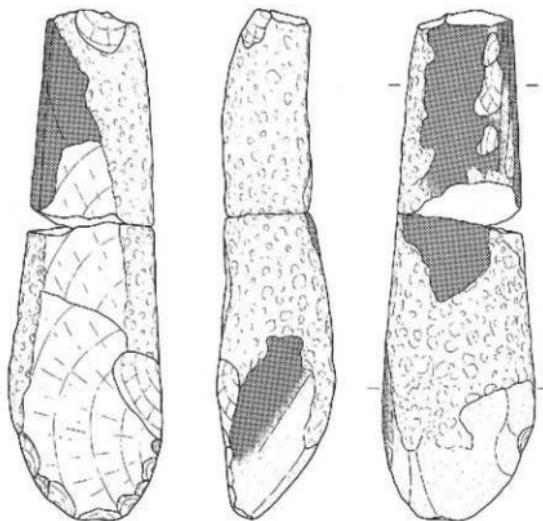
286



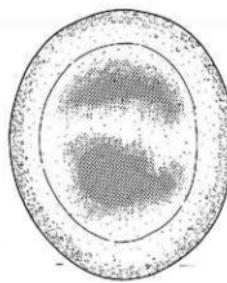
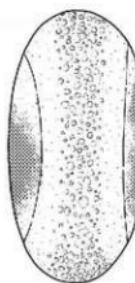
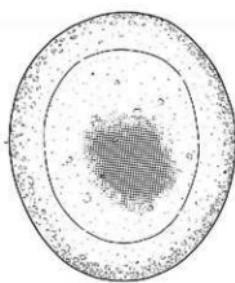
287



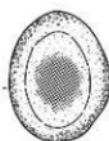
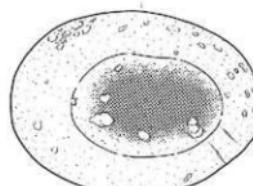
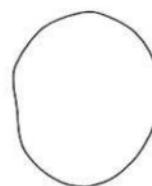
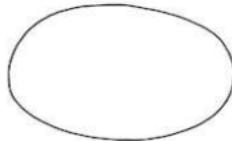
0 5cm



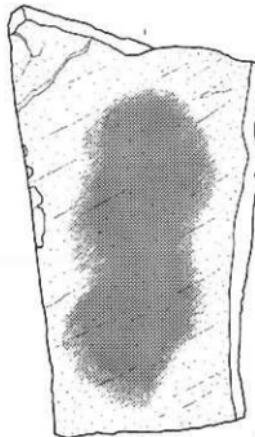
第39図 縄文時代出土遺物実測図（石器）



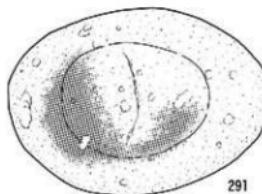
288



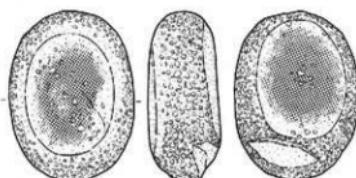
289



290



291



292

第40図 縄文時代出土遺物実測図（石器）

## 第5節 古墳時代の遺構と遺物

調査区内において計3基の地下式横穴墓を検出した。当初は墓群の検出を想定していたが、現状は疎らな分布である。周辺での聞き取りでも、調査区外南西側の民家付近で数基が発見された程度のようであった。

(ST-01)

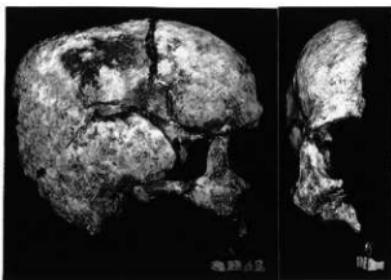
調査区の北西にある神社付近で検出した。玄室の天井部は既に崩壊しており、堅坑も半分以上が掠乱を受けていた。天井部崩落時に掘り返された可能性がある。人骨や副葬品等の遺物も残存しなかった。堅坑からの玄室方向は北東にとる。堅坑は2段の構造を呈し、砲弾形の平面プランを呈していたものと見られる。羨道部の長さは約0.53m、幅は約0.95mを測る。閉塞の状況は不明。玄室は左右非対称の両袖長方形を呈し、幅は約1.63m、奥行き約0.74mを測る。

(ST-02)

ST-01から南東に約41mの地点で検出した。耕作中の陥没で発見されたもの。昭和59年に宮崎県教育委員会により既に調査が終了している遺構であり、データの混同を避けるため計測値等の詳細には触れない。堅坑からの玄室方向は北西にとる。玄室は両袖長方形を呈する。以前調査時に出土した鉄刀1振は、町文化財調査事務所にて保管している。

(ST-03)

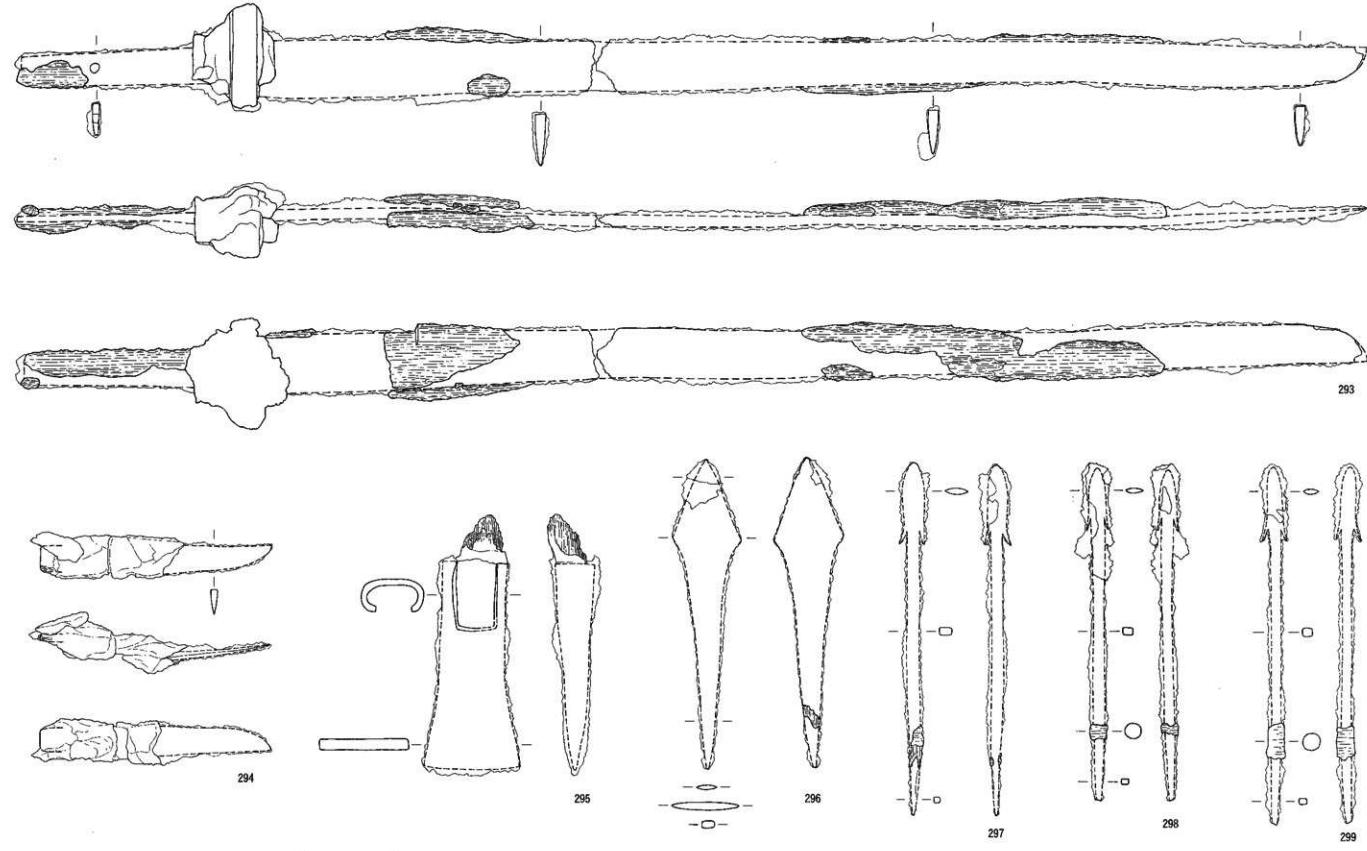
ST-02から東北東に約30.6mの地点で検出した。崩落等の無い唯一の地下式横穴墓である。堅坑は砲弾形の平面プランを呈し、2段構造で手前側は縦幅約0.35mのテラス状に造る。覆土はアカホヤブロック混じりの黒色土で、玄門部を粘土により閉塞する。玄門部は縦0.53m横0.66mで羨道部の長さは0.29mを測る。玄室は両袖長方形で縦断面横断面とともに台形を呈するが天井部中央のみを高くドーム状に造る。玄室南東に頭部を置き、一体の壮年女性が埋葬されていた。人骨の保存状態は不良で、頭蓋と下肢の一部が残存するのみであった。右頬骨には朱の付着が見られた。左肩横に鉄刀が1振(293)、右肩横に刀子が1本(294)と鉄斧が1本(294)、右頭部横に鉄鎌が4本(295~298)の副葬品が出土した。追葬等の痕跡は認められなかった。



ST-03出土人骨

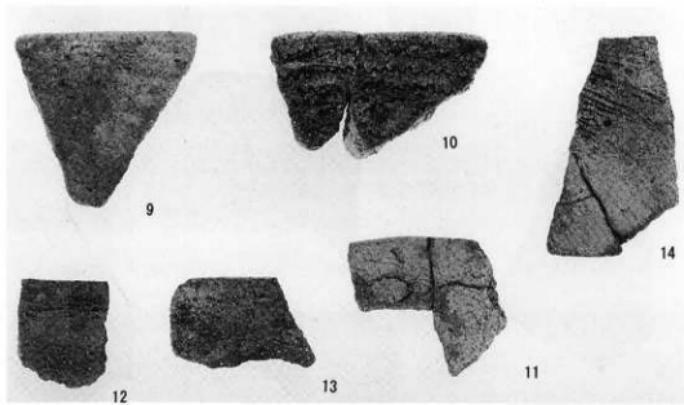
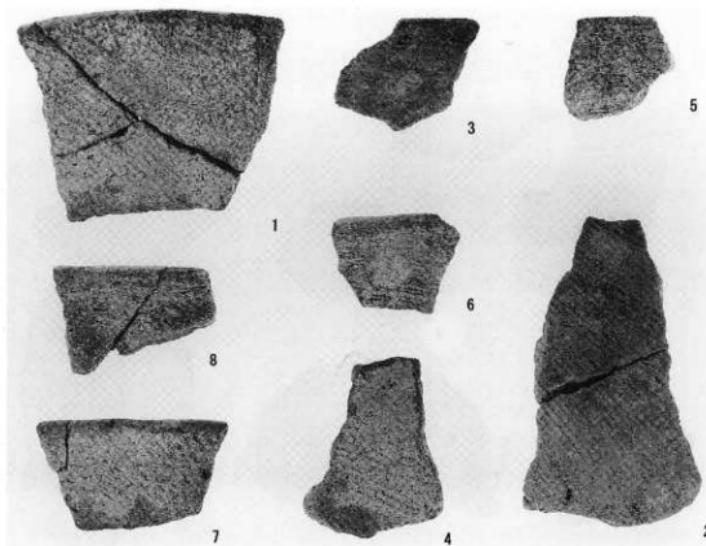
(参考文献及び関連文献ほか)

- 「芳ヶ浦第1・第2・第3遺跡 札ノ元遺跡」田野町文化財調査報告書第3集 田野町教育委員会1986  
「丸野第2遺跡」田野町文化財調査報告書第11集 田野町教育委員会1990  
「田野町内遺跡詳細分布調査」田野町文化財調査報告書第12集 田野町教育委員会1990  
「井手ノ尾遺跡」田野町文化財調査報告書第14集 田野町教育委員会1992  
「長森遺跡」田野町文化財調査報告書第17集 田野町教育委員会1994  
「八重地区遺跡」田野町文化財調査報告書第19集 田野町教育委員会1994  
「田野町内遺跡発掘調査」田野町文化財調査報告書第20集 田野町教育委員会1994  
「七野第4遺跡」田野町文化財調査報告書第25集 田野町教育委員会1997  
「鹿毛第3遺跡」田野町文化財調査報告書第28集 田野町教育委員会1998  
「本野遺跡(縄文時代遺物編)」田野町文化財調査報告書第32集 田野町教育委員会1999  
「本野遺跡(弥生時代の調査)」田野町文化財調査報告書第33集 田野町教育委員会2000  
「高野原遺跡A区」田野町文化財調査報告書第34集 田野町教育委員会2000  
「高野原遺跡B・C区(1)」田野町文化財調査報告書第35集 田野町教育委員会2000  
「高野原遺跡(E~G区)」田野町文化財調査報告書第36集 田野町教育委員会2000  
「元野河内遺跡」田野町文化財調査報告書第39集 田野町教育委員会2001  
「畑田遺跡」田野町文化財調査報告書第40集 田野町教育委員会2001  
「本野原遺跡概要」田野町文化財調査報告書第44集 田野町教育委員会2002  
「高野原遺跡B・C区(2)」田野町文化財調査報告書第45集 田野町教育委員会2003  
「高野原遺跡B・C区(3) 弥生時代の調査」田野町文化財調査報告書第46集 田野町教育委員会2003  
「山村野地区遺跡」田野町文化財調査報告書第47集 田野町教育委員会2003  
「天神河内第1遺跡」宮崎県教育委員会1991  
「田野町史(下巻)」田野町1983  
「平畠遺跡」宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第2集 宮崎県教育委員会1985  
「学頭遺跡・八児遺跡」宮崎県教育委員会1995  
「中村遺跡」山田町文化財調査報告書第1集 宮崎県山田町教育委員会1983  
「烏井原遺跡」熊本市教育委員会1977  
水ノ江和同「中・南九州の曾田式土器」肥後考古第7号 1990  
堂込秀人「南九州耽磨土器の再検討—人佐式と黒川式の細分—」鹿児島考古第31号1997



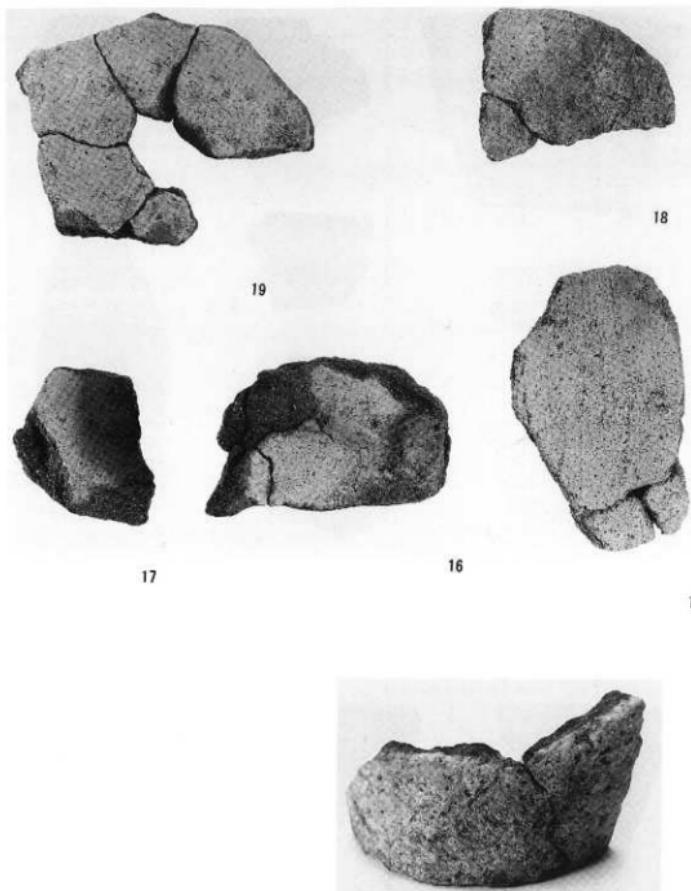
第41図 ST-03出土遺物実測図

図版 1



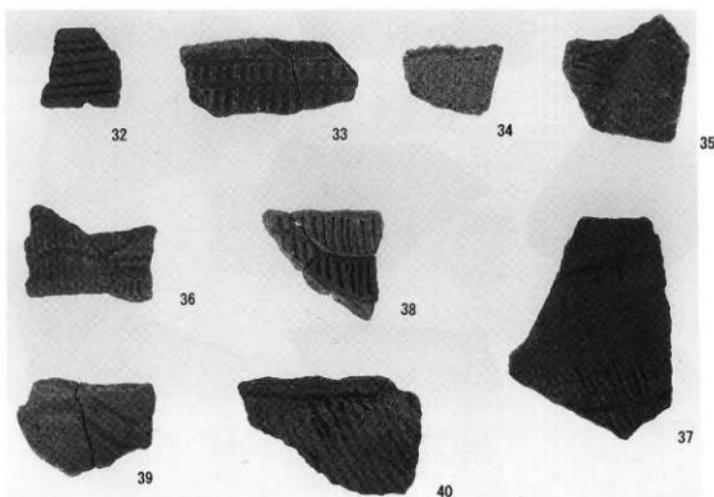
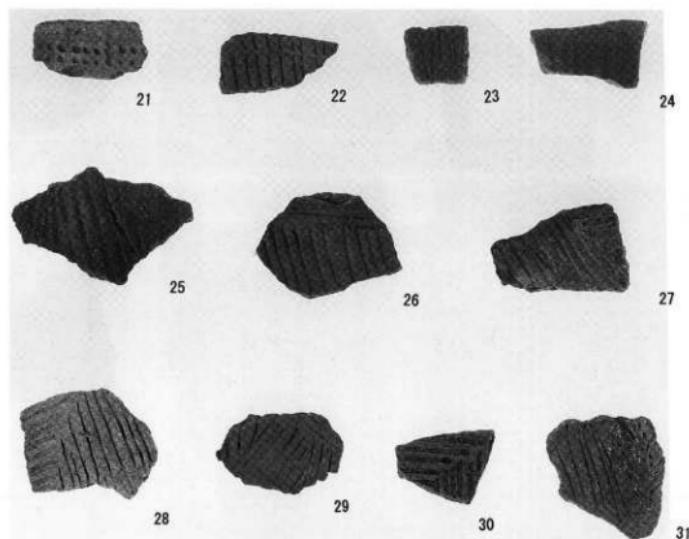
縄文時代早期の土器

図版2



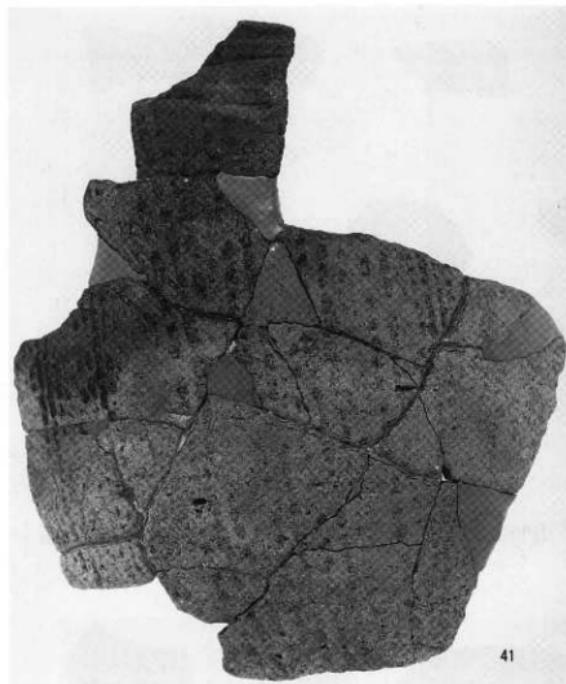
縄文時代早期の土器

図版 3



縄文時代前期の土器

図版 4



41



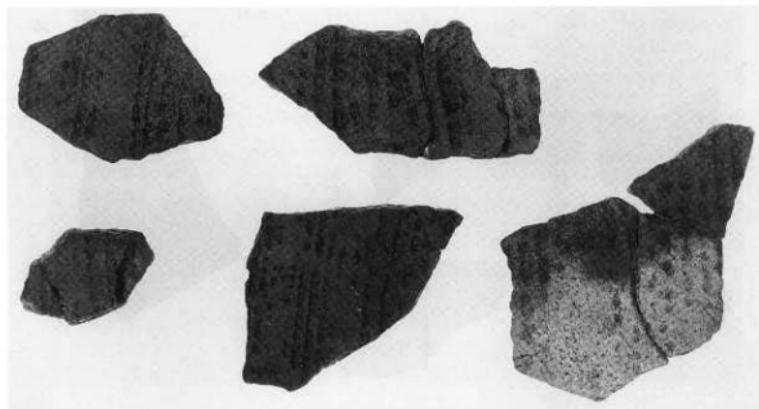
42



43

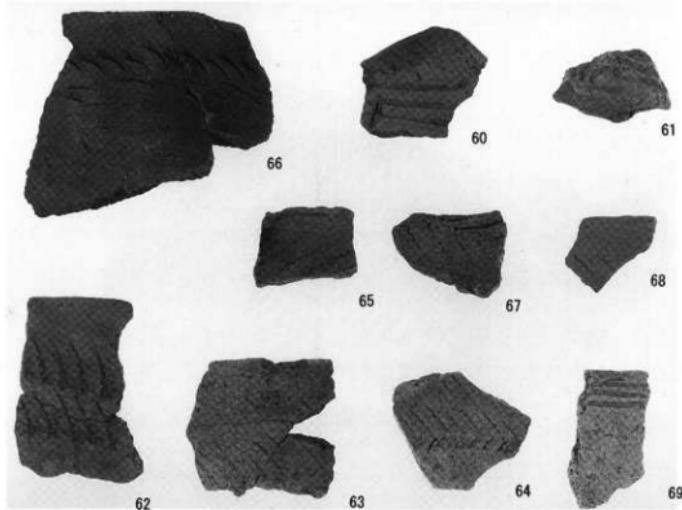
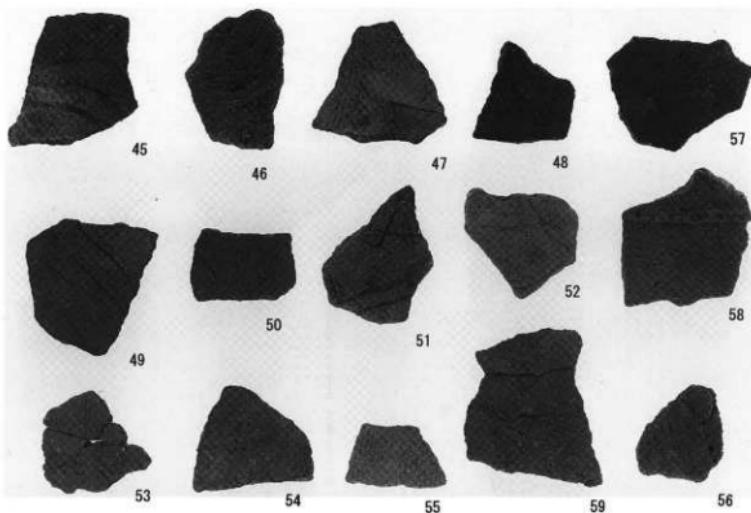


44



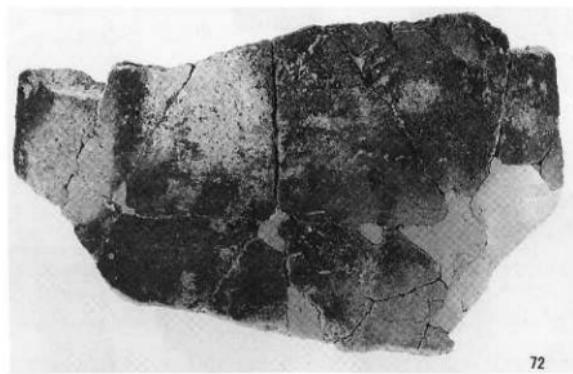
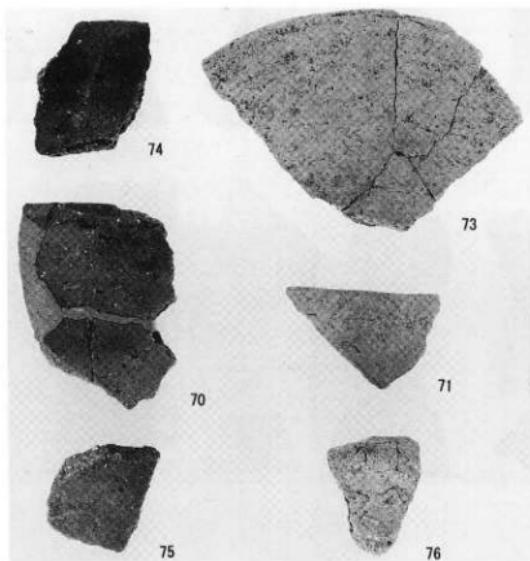
縄文時代前期の土器

図版5



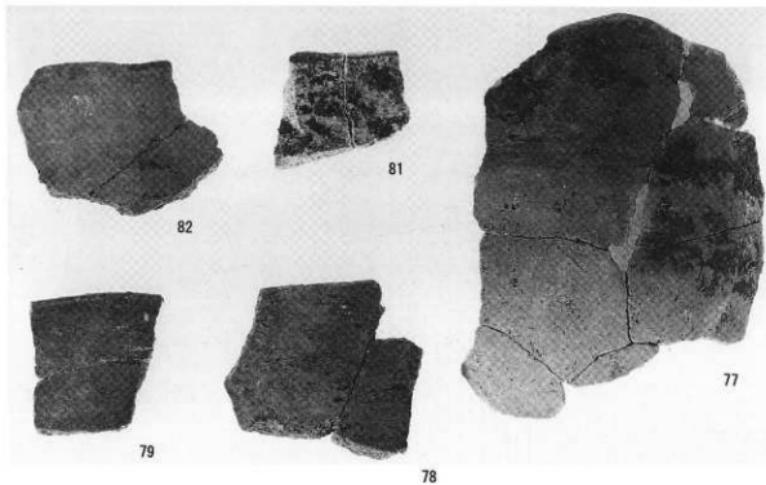
縄文時代前期末～中期初頭・後期の土器

図版6



縄文時代後晩期の土器

図版7

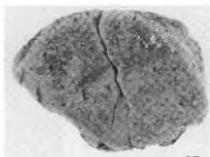


縄文時代後晩期の土器

図版 8



83



85



84



86



87



90



89



88

縄文時代後晩期の土器

図版9



91



93



92



97



96



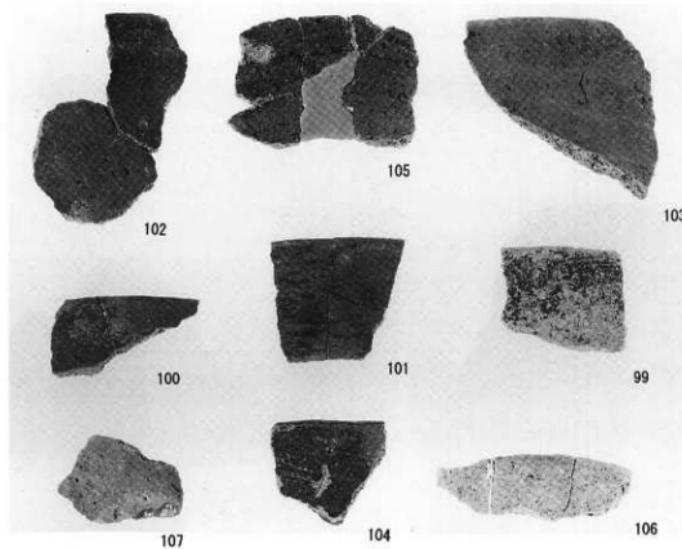
95

縄文時代後晩期の土器

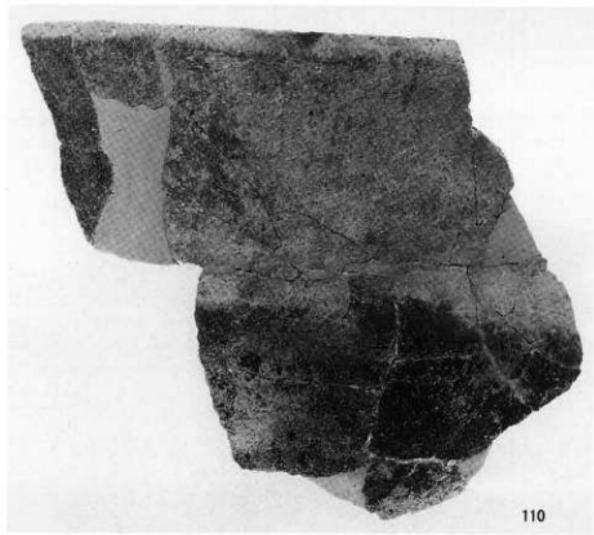
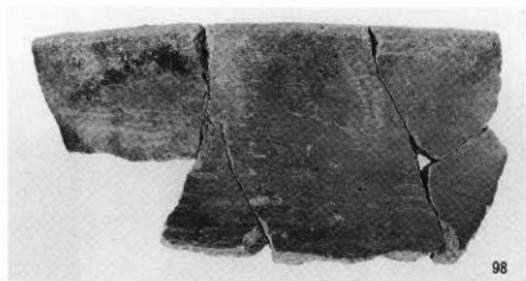
図版10



94



縄文時代後晩期の土器



縄文時代後晩期の土器

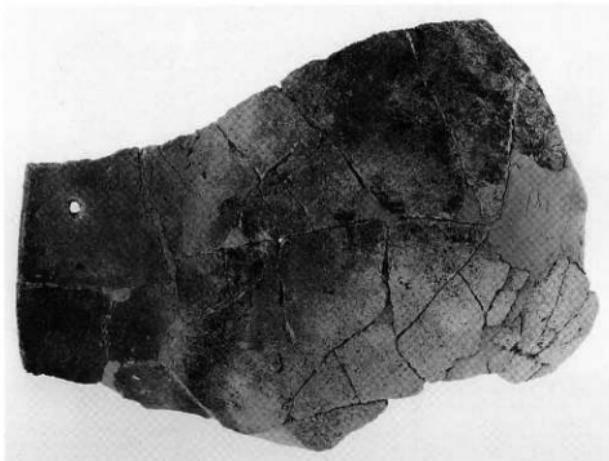
図版12



109



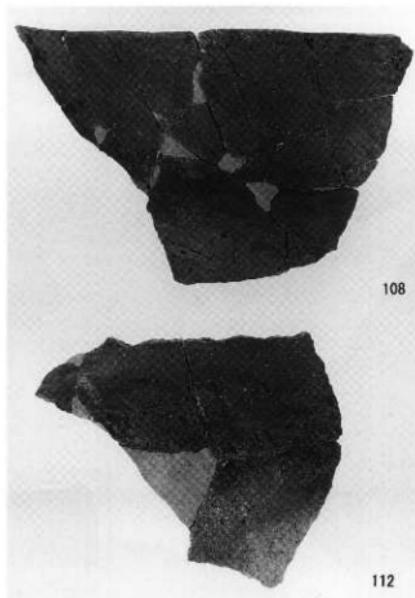
113



111

縄文時代後晩期の土器

図版13



108

112



115

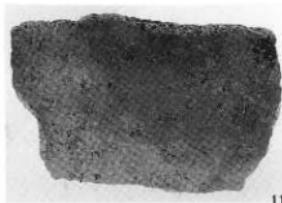
114

縄文時代後晩期の土器

図版14



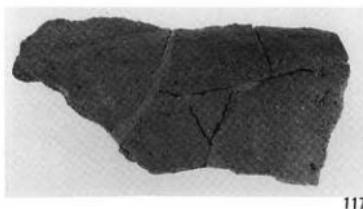
116



119



118



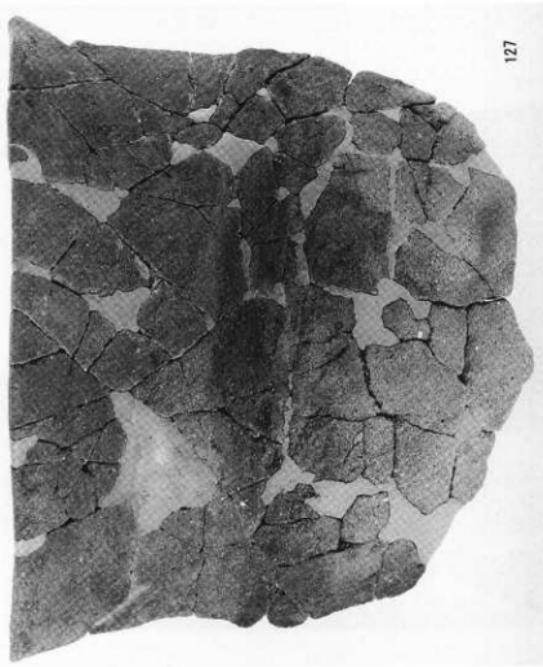
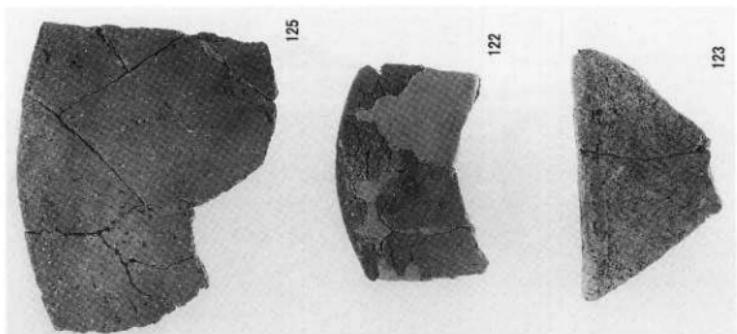
117



120

縄文時代後晩期の土器

図版15



縄文時代後晩期の土器